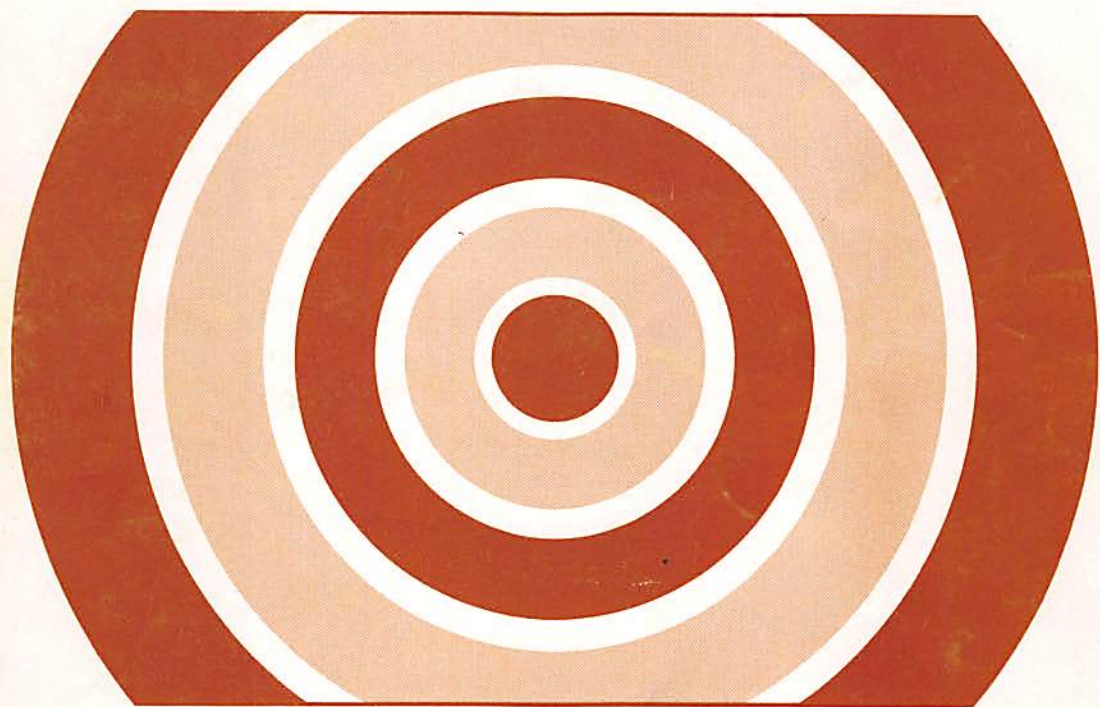


昭和 57 年度

林業の概況



和歌山県



あ い さ つ

県土の 77% が森林で占められている本県は、古くから紀州木の国といわれ、木材生産が活発に行われてきた地域であり、森林資源の内容も戦後の拡大造林の推進等により人工林率 60% と全国的にみて優位にあります。このように私達県民の持っている大きな財産である森林資源を有効に活用していくことは、木材生産のみならず、県土の保全、水資源のかん養等、県民に大きな利益を与えるものと考えられます。

しかしながら、近年林業及び木材業界をとりまく環境は、かつてない程きびしい状況におかれ、木材需要の伸びなやみや林業後継者問題等多くの問題があるなかで近い将来迎える国産材時代にそなえ今からそのビジョン作りを進めていくためには、林業の現状を正確には握ることが重要であります。

本書は、林業の現状を図表等によりわかりやすく集録したものです。林業関係者はじめ、各方面の方々に広く活用していただき、本県林業の発展の一助にしていいただければ幸いと存じます。

昭和 57 年 4 月

農林部長 市 川 龍 雄

The first part of the report deals with the general situation in the country. It is noted that the economy is in a state of depression, and that the government is unable to meet its obligations. The report also mentions that the population is suffering from a lack of food and clothing, and that the government is unable to provide for their needs.

The second part of the report deals with the political situation. It is noted that the government is unable to carry out its policies, and that the country is in a state of political instability. The report also mentions that the population is suffering from a lack of freedom, and that the government is unable to provide for their needs.

The third part of the report deals with the social situation. It is noted that the population is suffering from a lack of education, and that the government is unable to provide for their needs. The report also mentions that the population is suffering from a lack of health care, and that the government is unable to provide for their needs.

The fourth part of the report deals with the economic situation. It is noted that the economy is in a state of depression, and that the government is unable to meet its obligations. The report also mentions that the population is suffering from a lack of food and clothing, and that the government is unable to provide for their needs.

The fifth part of the report deals with the political situation. It is noted that the government is unable to carry out its policies, and that the country is in a state of political instability. The report also mentions that the population is suffering from a lack of freedom, and that the government is unable to provide for their needs.

目 次

第1 林 業 編

和歌山県管内図（森林計画配置図）	1
1 森 林	2
(1) 林 野 面 積	2
(2) 森 林 資 源	3
(3) 森 林 施 業 計 画	5
2 造 林	7
3 林 道	9
4 林産物の生産	11
(1) 素 材 生 産 量	11
(2) しいたけ生産量	12
(3) 木 炭 生 産 量	12
(4) その他特用林産物生産量	13
5 林業生産所得	14
6 製材工場の規模	15
7 木材需給及び木材価格	16
(1) 木 材 の 需 給	16
(2) 住 宅 建 設	17
(3) 木 材 価 格	18
8 林 業 経 営	19
9 林 業 就 業	20
(1) 林業就業者数	20
(2) 林業就業構造	21
10 林 家	22
11 森 林 組 合	23
12 林業研究グループ	24
13 県土の保全	25
14 森 林 保 護	27

15	森林の機能	28
16	和歌山県林業の諸指標	29
17	森林資源並びに林産物生産等の見通し	31
(1)	和歌山県	31
(ア)	森林整備の目標(民有林)	31
(イ)	造林及び伐採の見通し	31
(ウ)	林産物生産の見通し	32
(エ)	林道・治山整備の目標	32
(2)	全 国	33
(ア)	森林資源整備の目標	33
(イ)	林産物需給の見通し	34

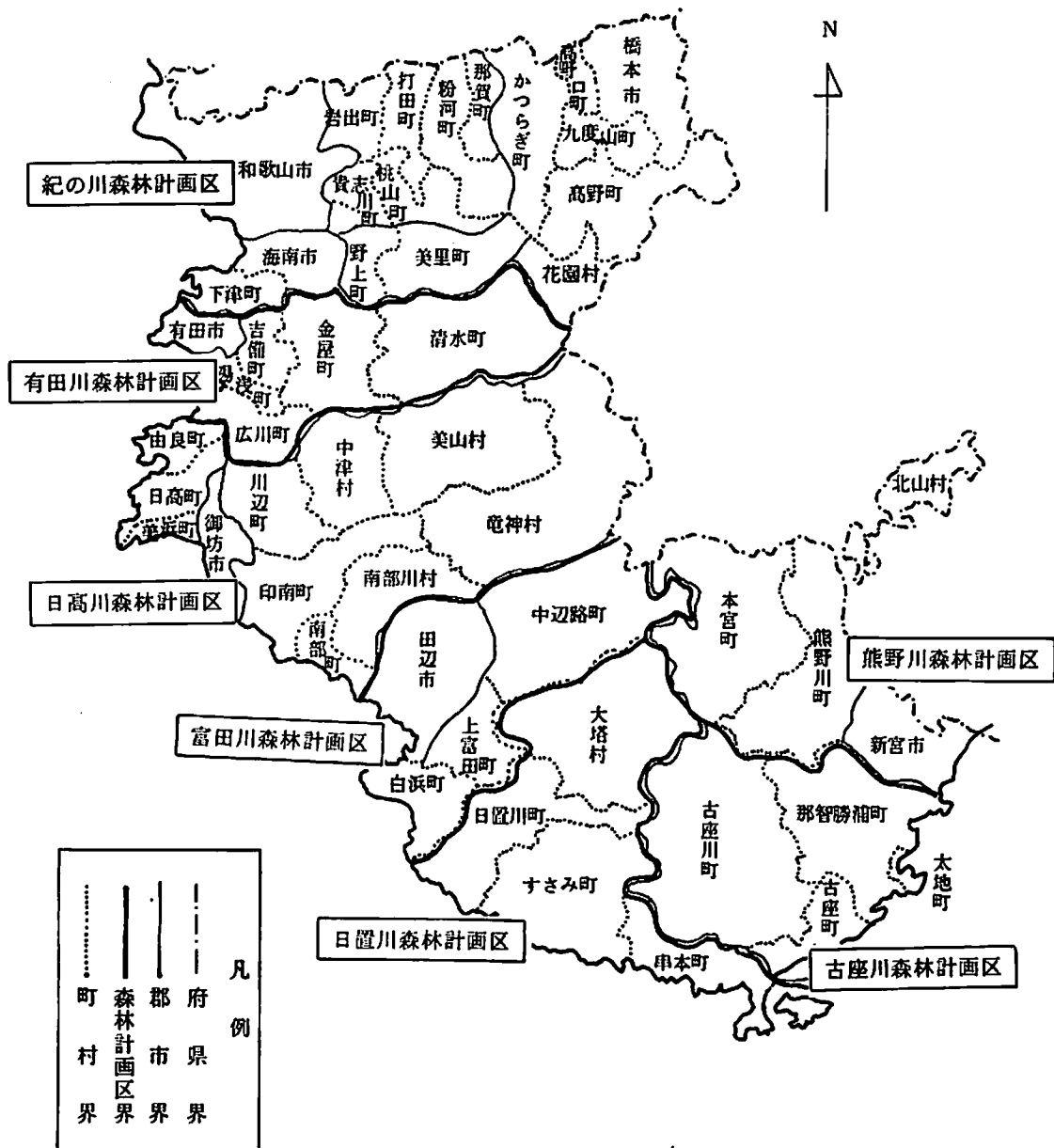
第2 山村対策編

	山村地域(振興山村)及び過疎地域図	35
1	山村・過疎地域	36
(1)	山村・過疎地域	36
(2)	人口動態	36
(3)	年齢別人口構成	38
(4)	産業別就業人口	39
2	山村地域の産業	40
(1)	山村林業の地位	40
(2)	保有山林規模別林家数	40
(3)	人工林面積の推移	41
3	生活環境	42
(1)	国道・県道・市町村道の整備状況	42
(2)	中学校の児童生徒数	44
(3)	医 療	45
(4)	農業集落における生活環境の状況	45

第3	林務関係・行政組織図	46
----	------------	----

第1 林業編

和歌山県管内図（森林計画区配置図）



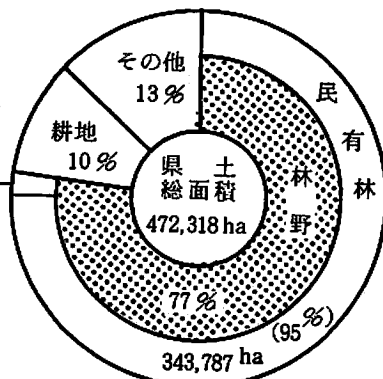
1 森 林

(1) 林野面積………県土の 77% は森林

本県の林野面積 (昭和 57 年 4 月現在) は 363,092 ha で、県土面積の 77% を占めている。このうち民有林は 95% で、国有林は 5% にすぎない。

土地利用の状況

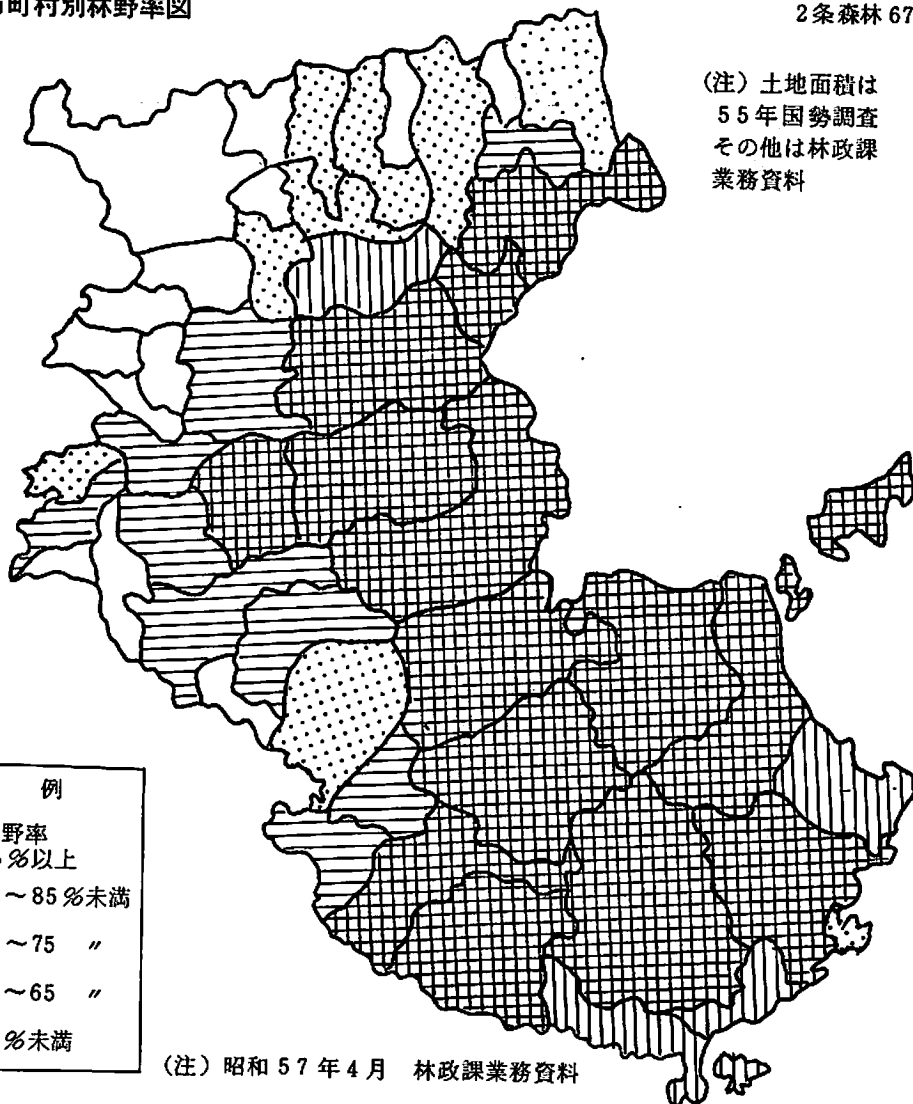
国有林 18,626 ha
(5%)



市町村別林野率図

2 条森林 679 ha

(注) 土地面積は
55 年国勢調査
その他は林政課
業務資料

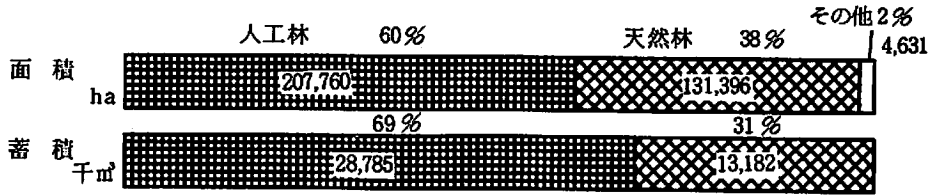


凡 例	
	林野率 85% 以上
	75~85% 未満
	65~75 % "
	50~65 % "
	50% 未満

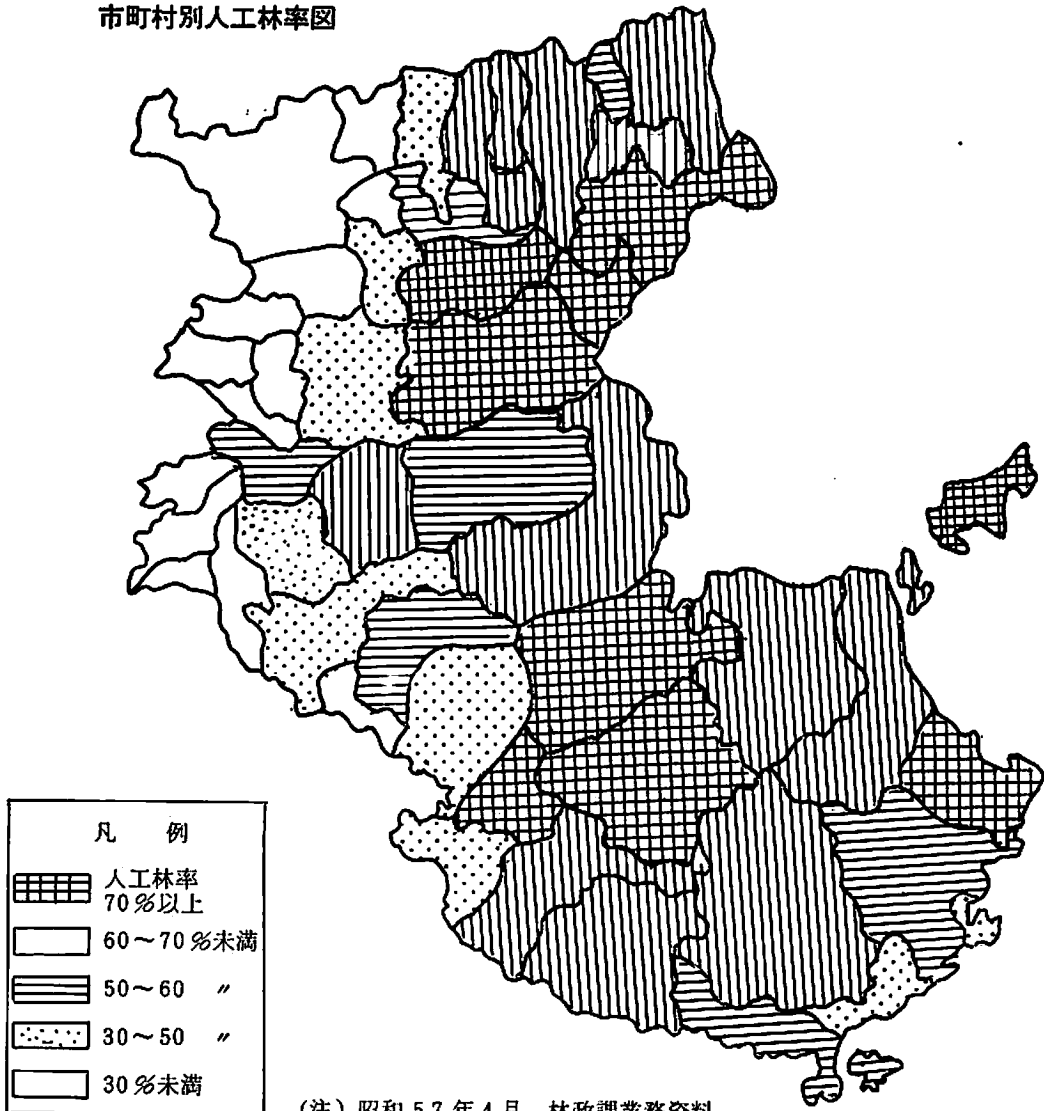
(注) 昭和 57 年 4 月 林政課業務資料

(2) 森林資源………人工林率 60%

民有林のうち人工林面積は、207,760 haでその蓄積は、28,785,300 m³ (139 m³/ha) となっている。



市町村別人工林率図

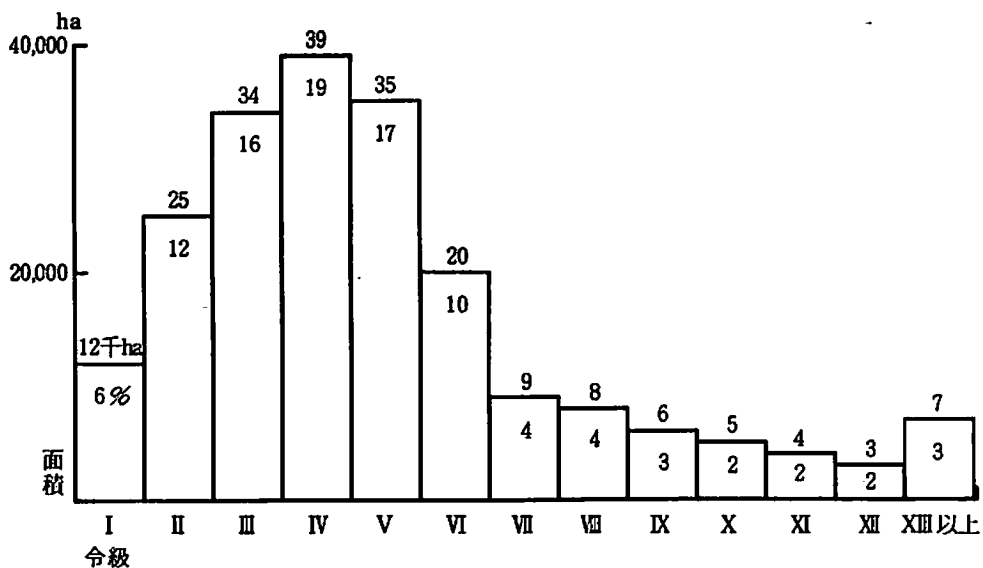


(注) 昭和57年4月 林政課業務資料

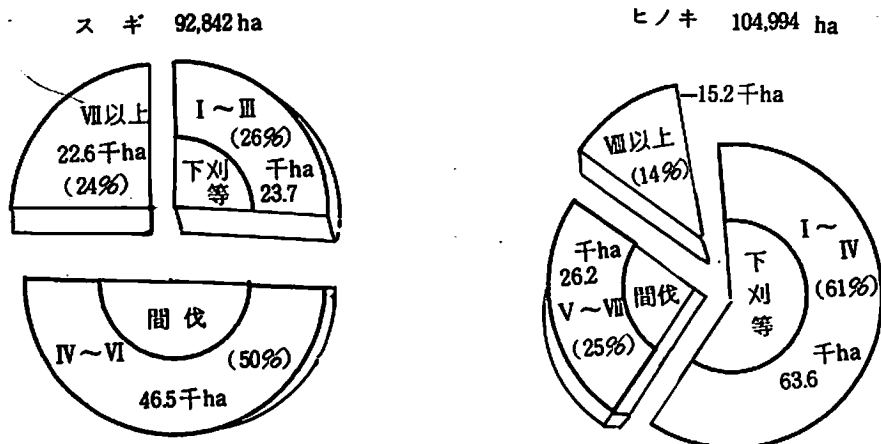
人工林樹種別構成



人工林令級構成 (面積)



スギ・ヒノキ令級構成

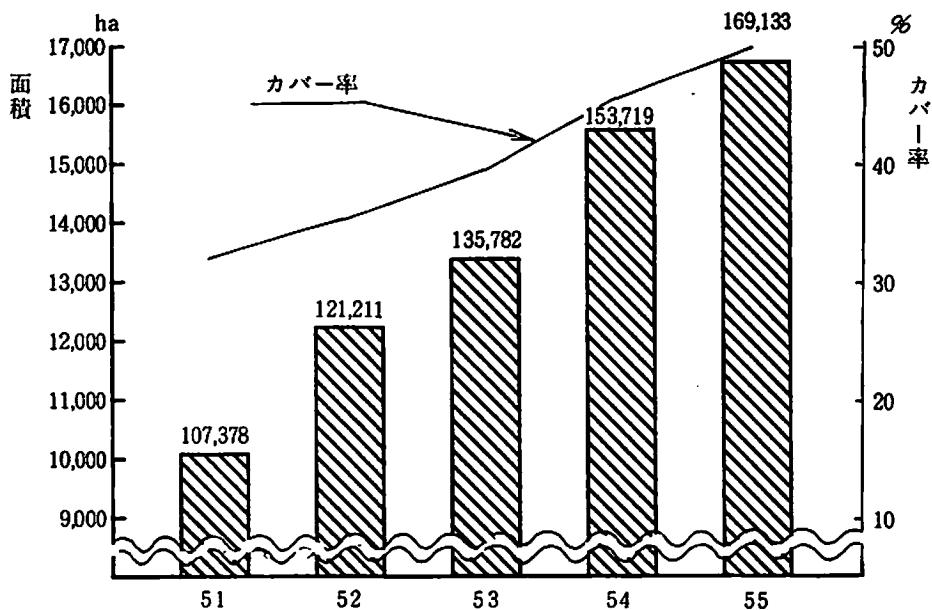


(注) 昭和57年4月 林政課業務資料

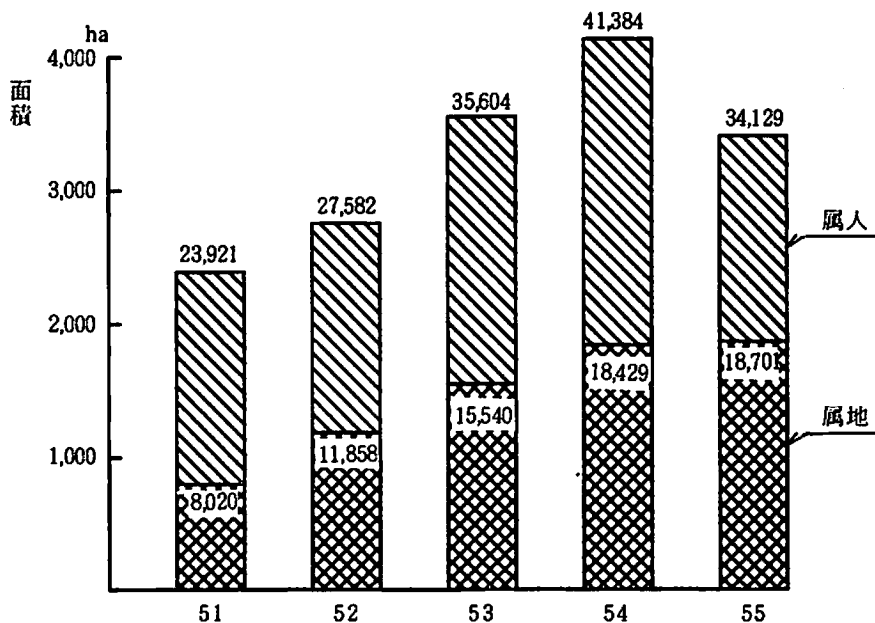
(3) 森林施業計画……増加する認定面積

伐採や造林・保育等の森林施業を計画的に推進するため作成する森林施業計画の認定面積は、年々増加し、55年度現在では、民有林（県有林を除く）の50%にあたる169,133 haとなっている。

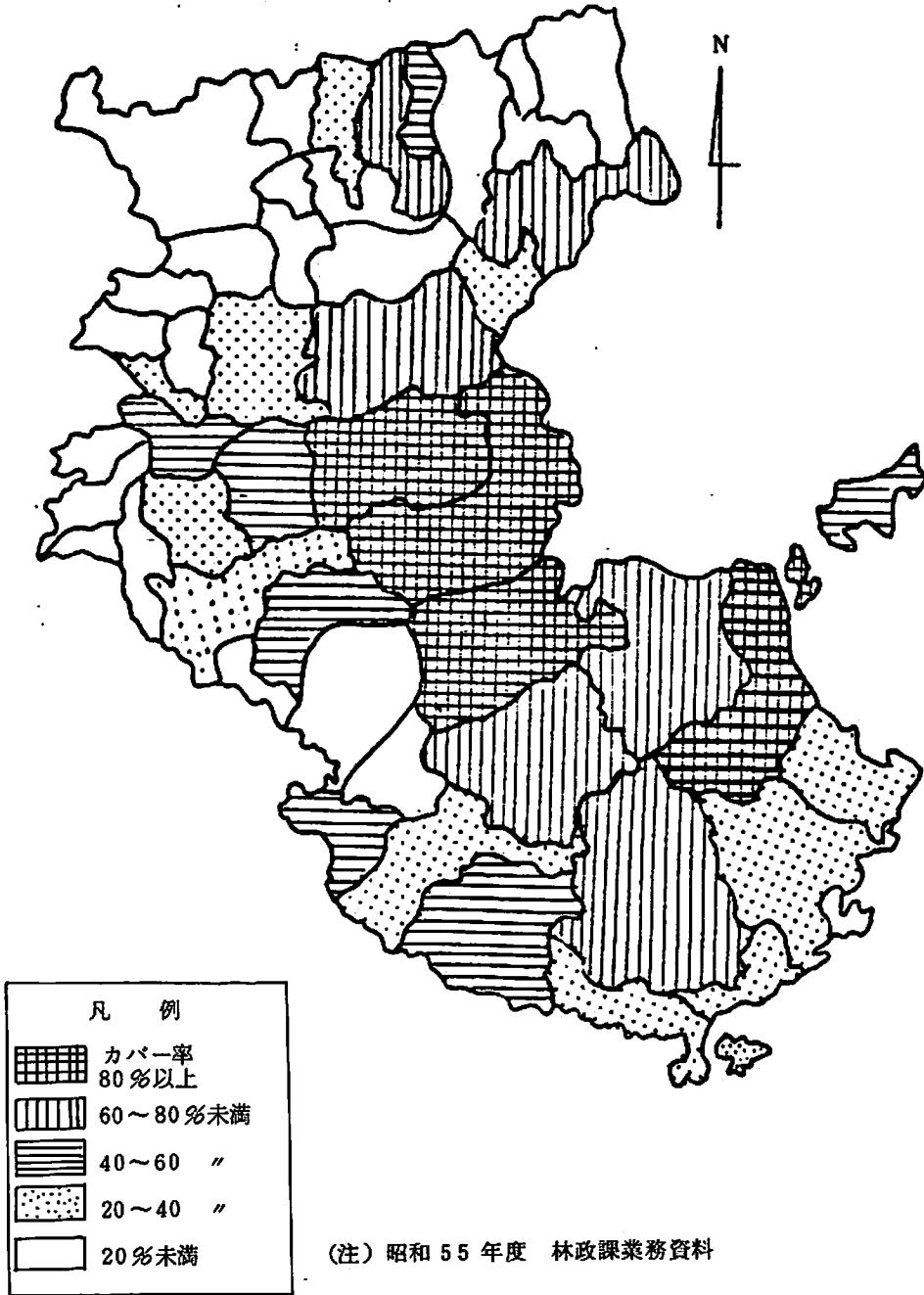
認定累計



年度別認定実績



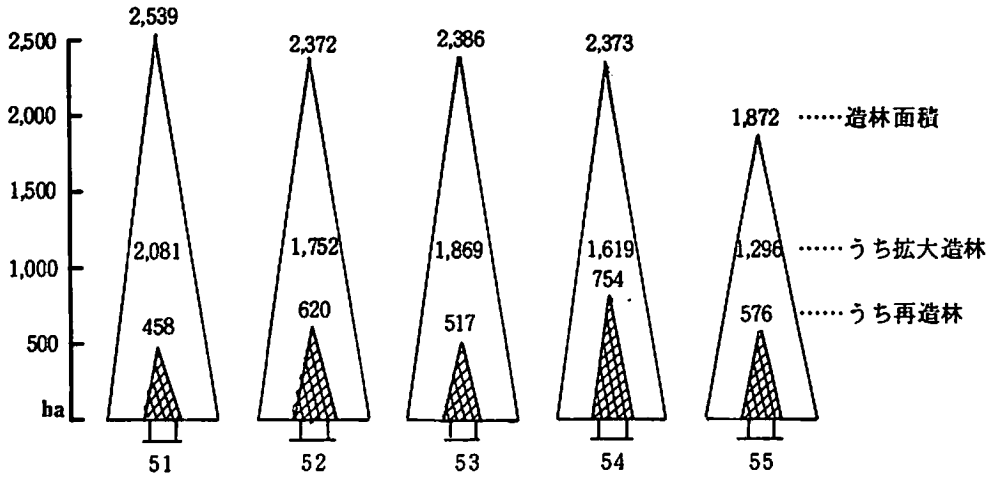
市町村別認定カバー率（55年度）



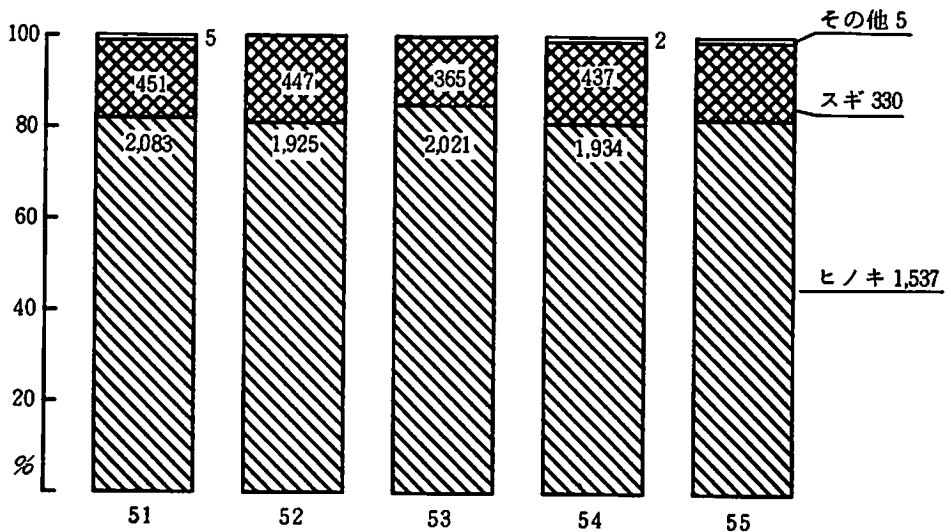
2 造 林…………減少した造林面積

戦後活発に行われた人工造林も 30 年（12,167 ha）をピークに減少を続け、51 年に約 1 / 5 の 2,539 ha になり、その後も漸減し、55 年には 2,000 ha を割った。

造林面積の推移

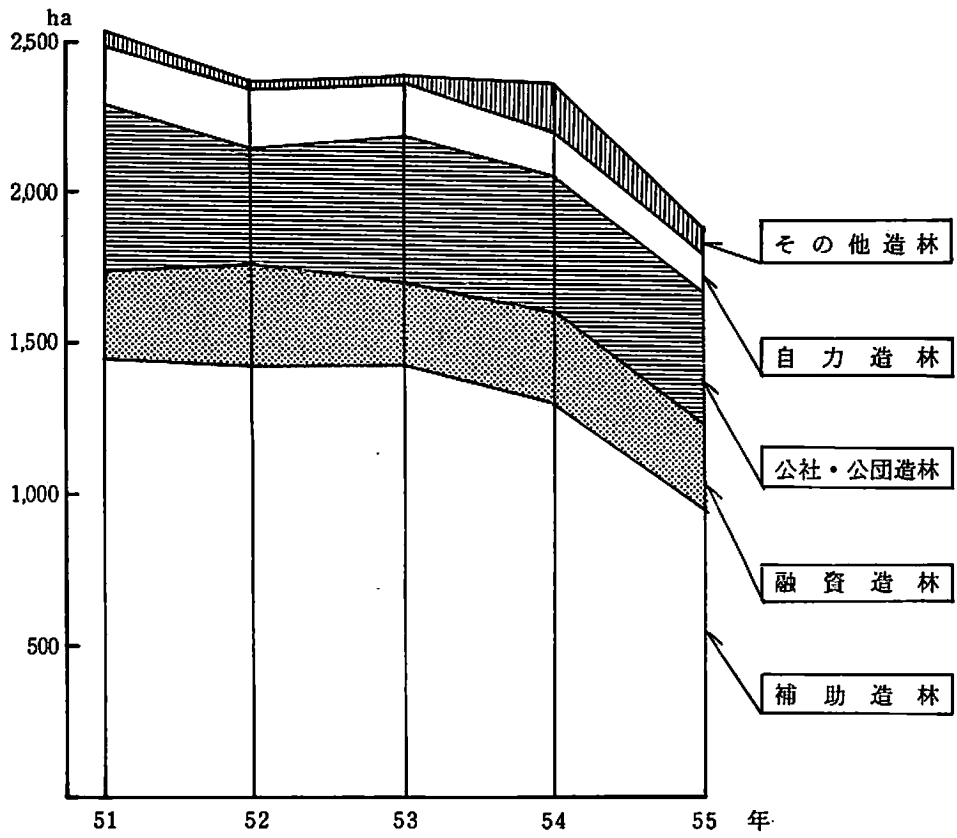


樹種別造林



(注) 林業課業務資料

制度別造林面積の推移

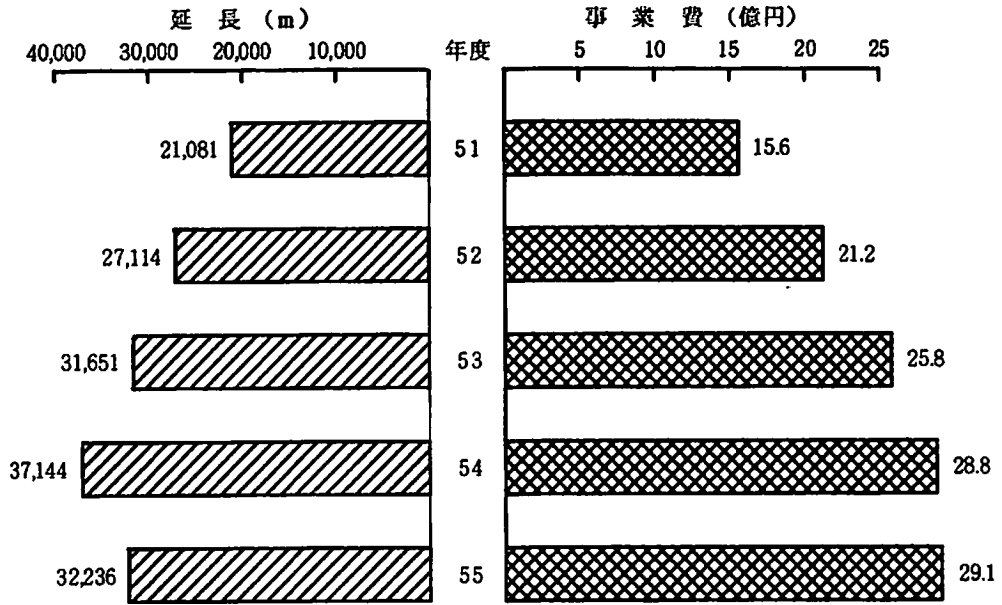


(注) 林業課業務資料

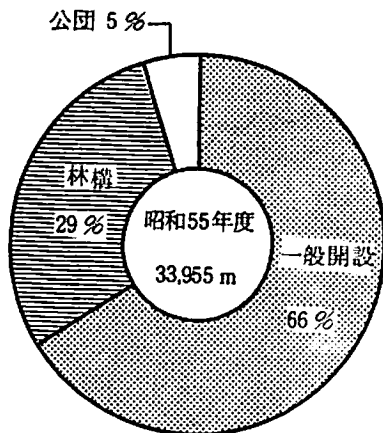
3 林 道……………急がれる林道整備

民有林林道の総延長（55年度末）は、735路線1,512 kmあって、うち自動車道は993 kmで、その林道密度は2.88 m/haと低い。

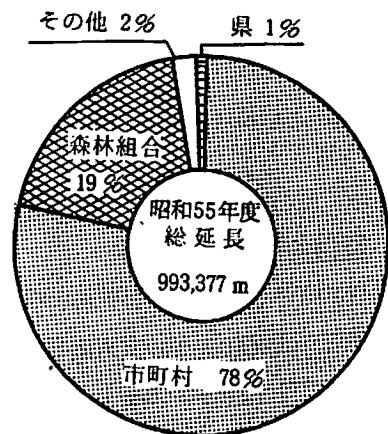
林道開設の推移（一般・林檜）



林道開設種類別実績（公団等含む）

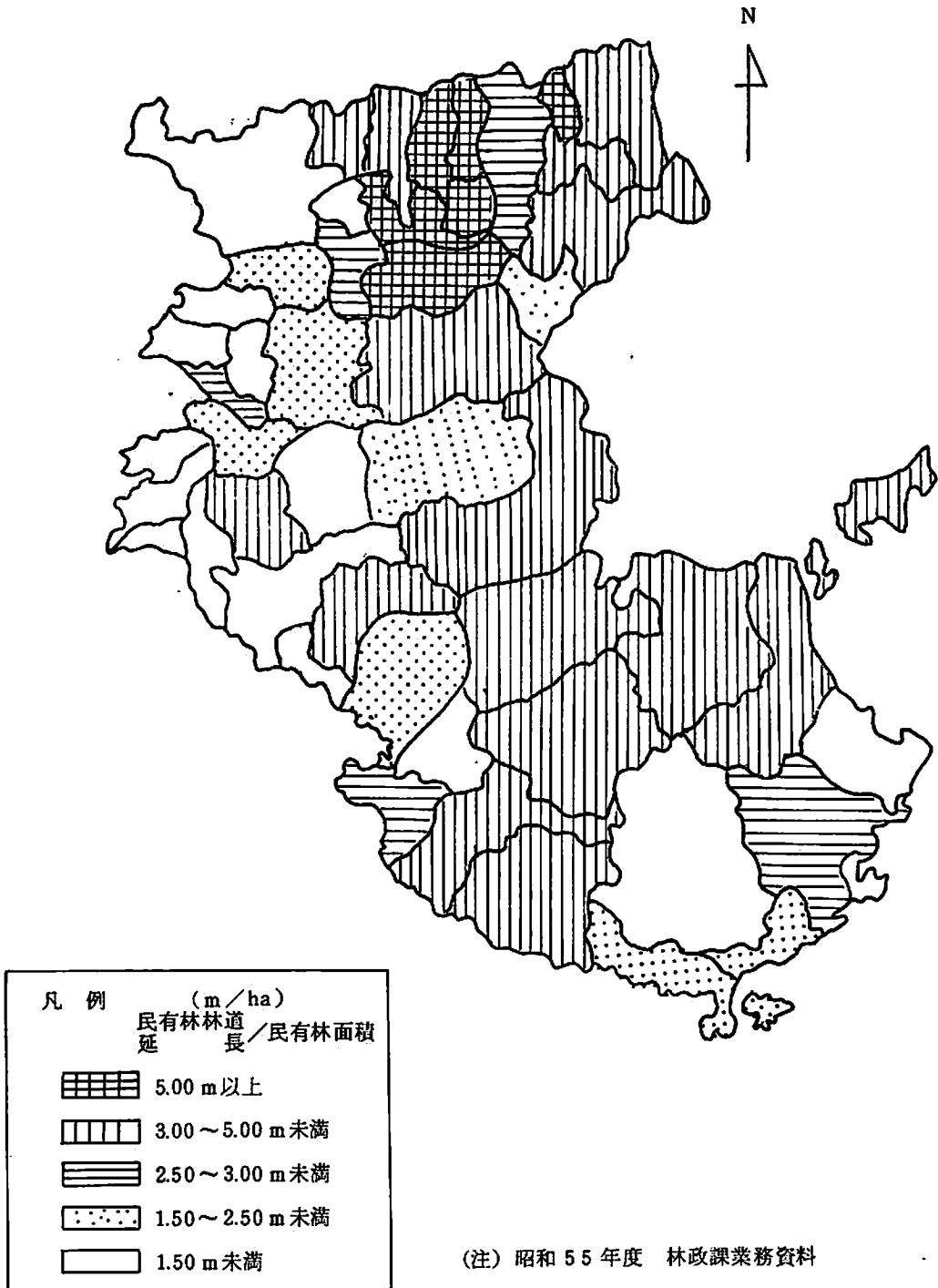


管理主体別林道延長（自動車道）



（注）昭和55年度 林政課業務資料

市町村別林道密度図 (56.4, 1 現在自動車道)

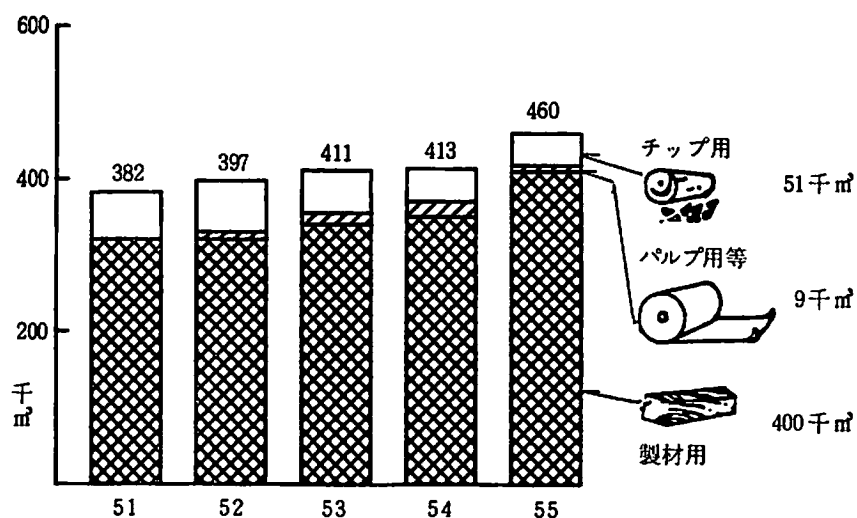


4 林産物の生産

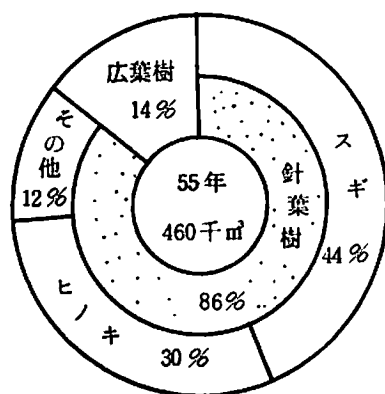
(1) 素材生産量……漸増傾向を示す素材生産

素材生産量は、伐期林分の減少、木材価格の低迷等により年々減少し、50年（最低367千㎡）には32年（最高1,141千㎡）の32%に減少した。しかし、最近はずかながら増加してきている。

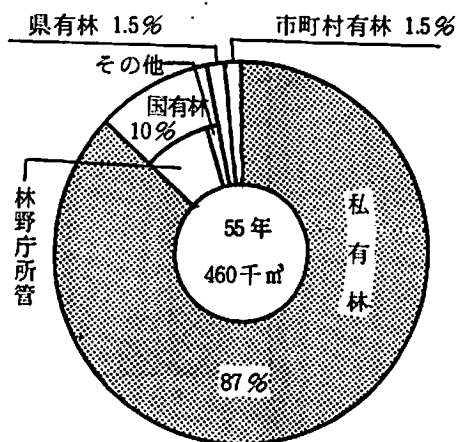
また、55年度における素材の用途別比率は、製材用が87%（400千㎡）で大半を占めている。



樹種別素材生産量（55年）



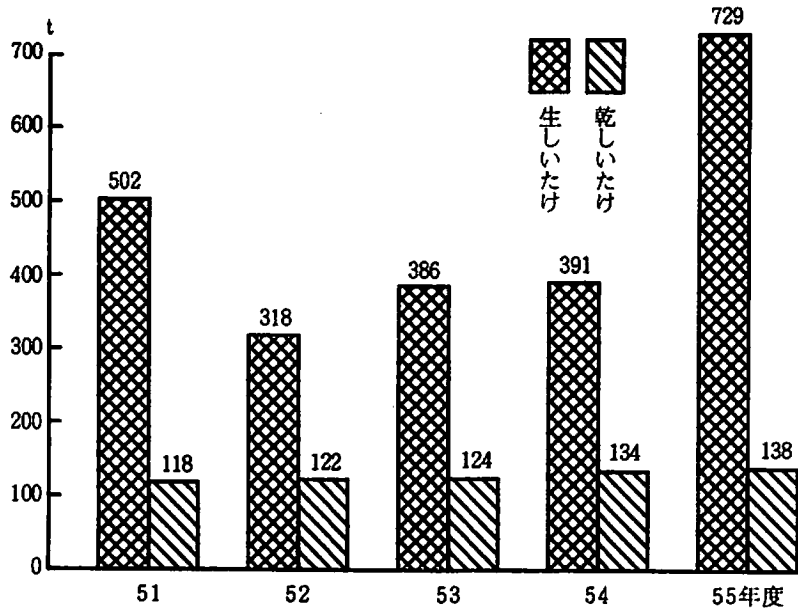
所有形態別素材生産量（55年）



（注）昭和57年1月 和歌山県農林水産統計年報

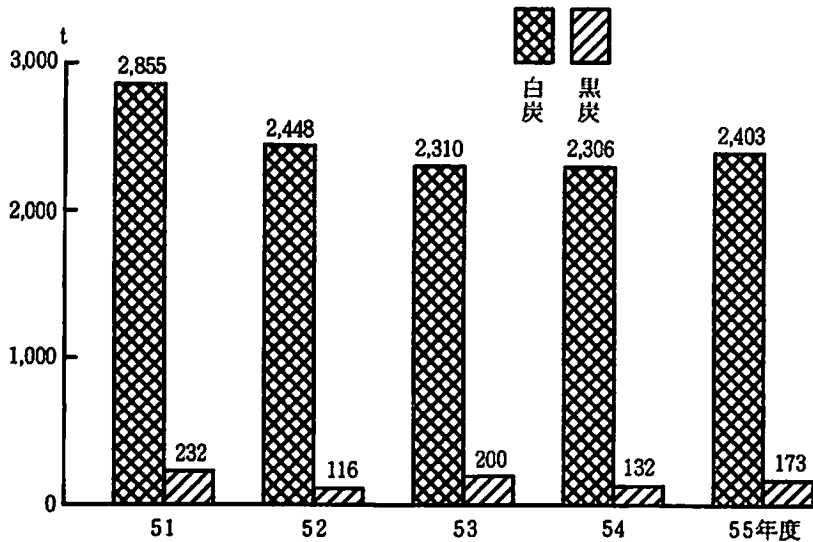
(2) しいたけ生産量……増産のきざしを見せた生しいたけ

複合林家にとって貴重な収入源となっているしいたけ生産は、原木不足等から伸び悩んでいたが、生しいたけは55年度生産量が急増した。



(3) 木炭生産量……根強い需要に維持される備長炭の生産

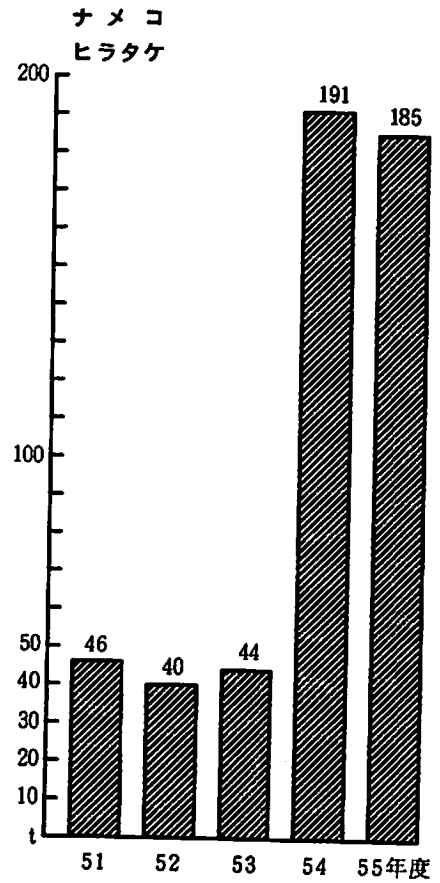
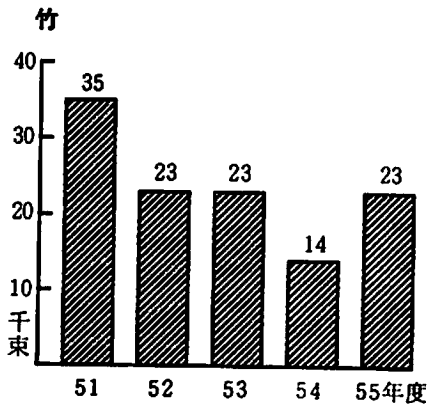
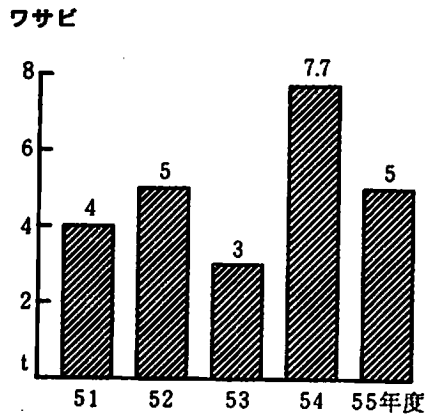
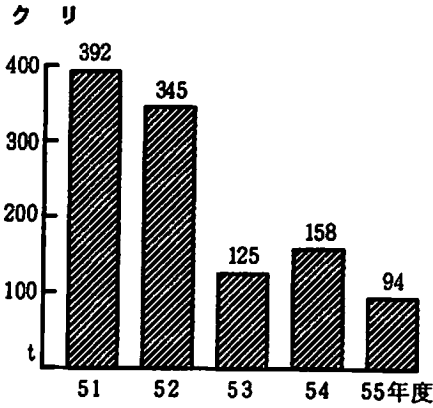
燃料革命により減少を続ける木炭生産も、本県特産の備長炭の良さが見直され、根強い需要にささえられて生産されている。



(注) 昭和55年度 林政課業務資料

(4) その他の特用林産物生産量……安定していない特用林産物

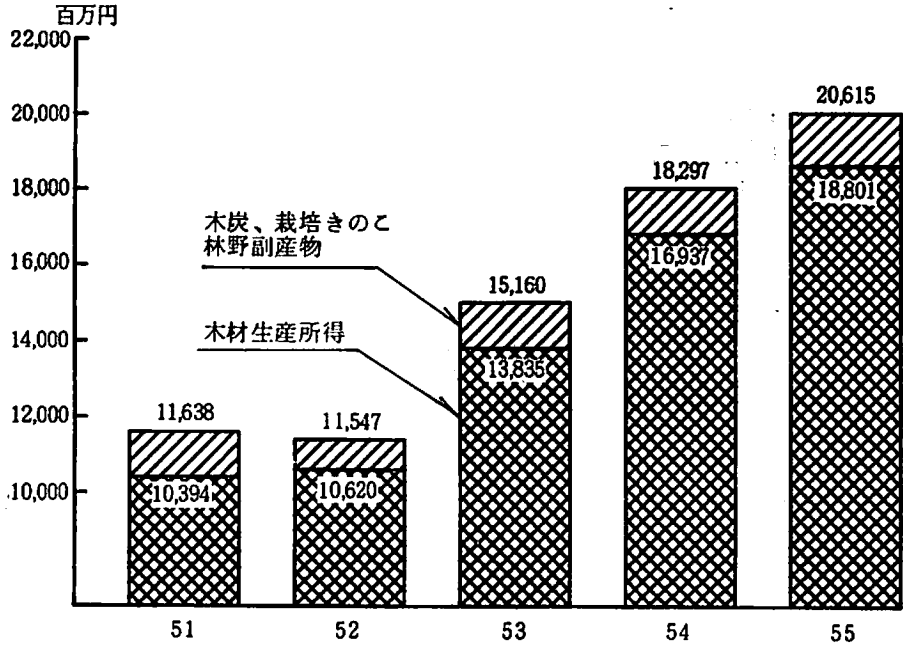
しいたけとともに複合林家の収入源である特用林産物の生産量は、年度によって増減が著しい。



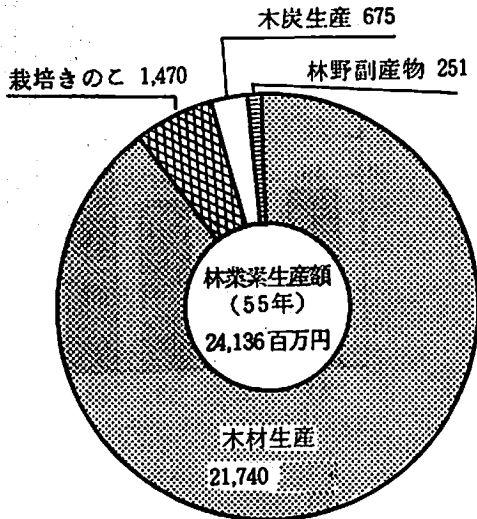
(注) 林政課業務資料

5 林業生産所得……増加する生産所得

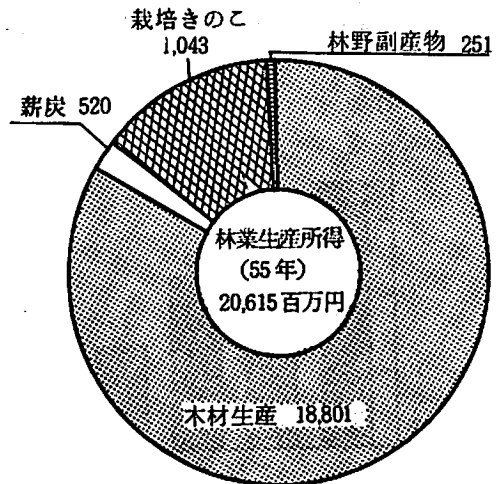
木材生産が大半を占める林業生産所得は53年以降伸びている。



林業生産額



品目別林業生産所得



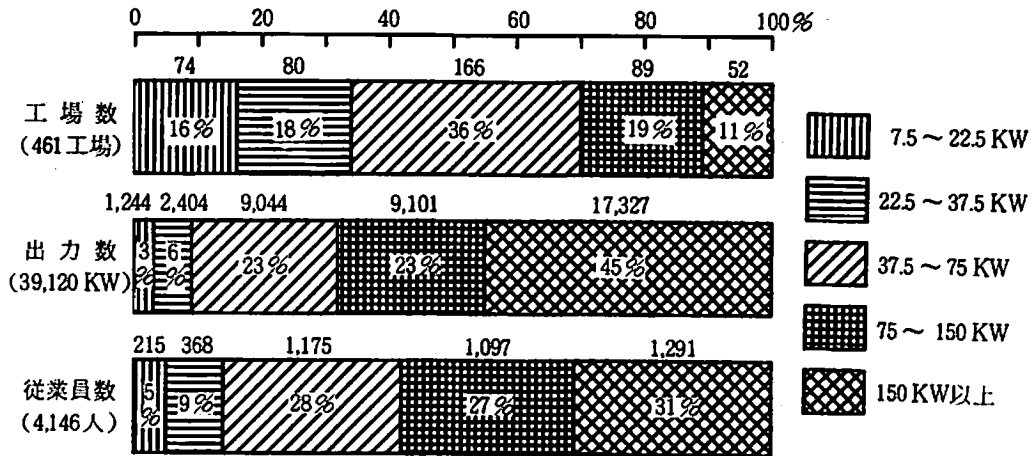
(注) 生産林業所得統計報告書

6 製材工場の規模………比較的規模の大きい製材工場

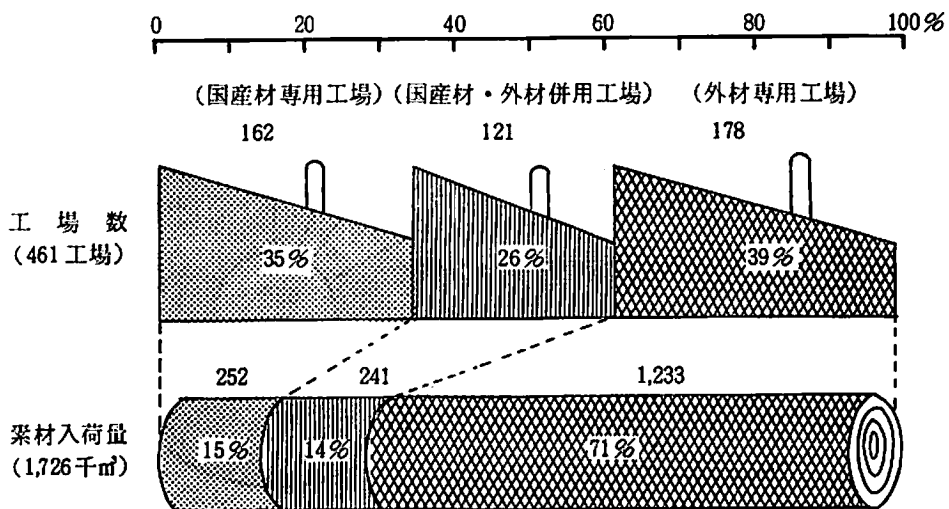
工場数は、49年以降小規模工場を中心に8%減少したが、総出力数は増加し、工場は大型化の傾向にある。

また、国産材専用工場数は全体の35%を占めているが、素材入荷量は全体の15%にすぎず、外材専用、国産材・外材併用工場に比して規模は零細である。

製材工場数等



類型別製材工場数と入荷量



(注) 木材需給報告書

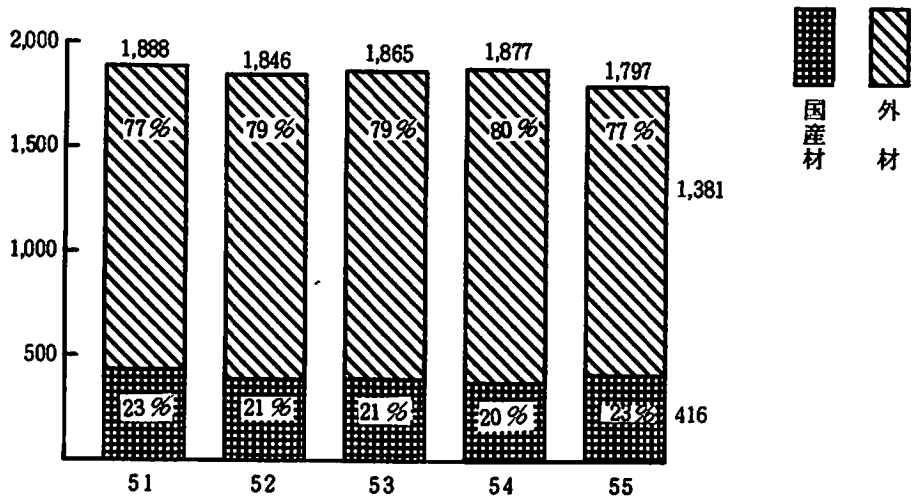
7 木材需給及び木材価格

(1) 木材の需給………停滞する木材需要、低下した木材自給率

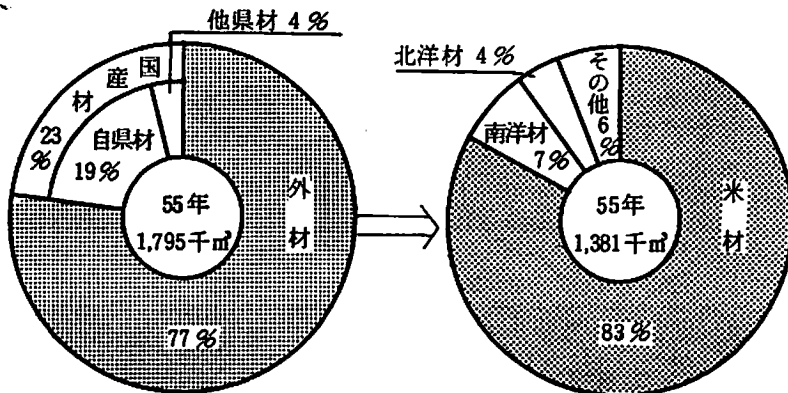
県内の木材需要量は、51年以降1,800千 m^3 台でほぼ横ばいの状態が続いていたが、55年には1,797千 m^3 に減少した。

55年の木材供給の内訳は、国産材23%（416千 m^3 ）外材77%（1,381千 m^3 ）となっていて、国産材の自給率は低い。

木材需給の推移（県）



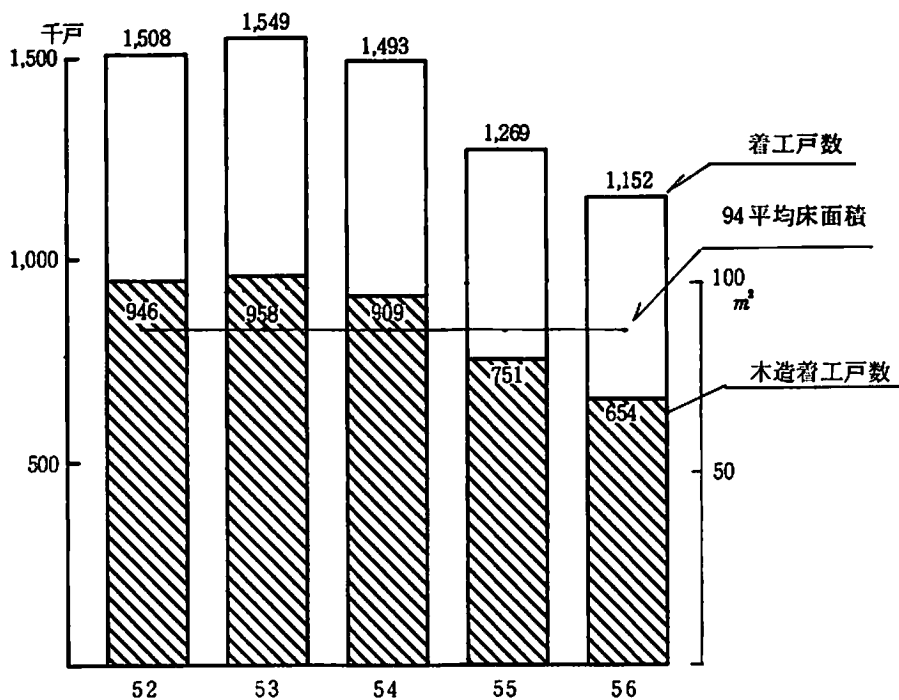
素材入荷量の内訳



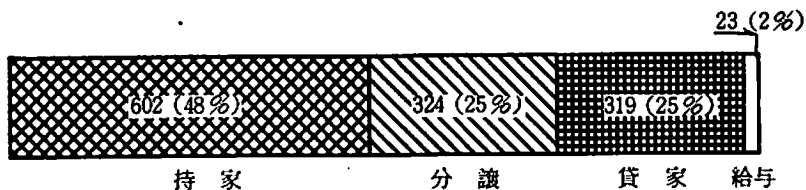
(注) 昭和55年度 林政課業務資料

(2) 住宅建設（全国） ……減少した新設住宅着工戸数

51年以降安定していた新設住宅着工戸数（全国）は54年から減少を続けている。しかし、1戸当たりの平均床面積は年々増加し、56年度94㎡となった。



種類別新設住宅戸数（55年度）

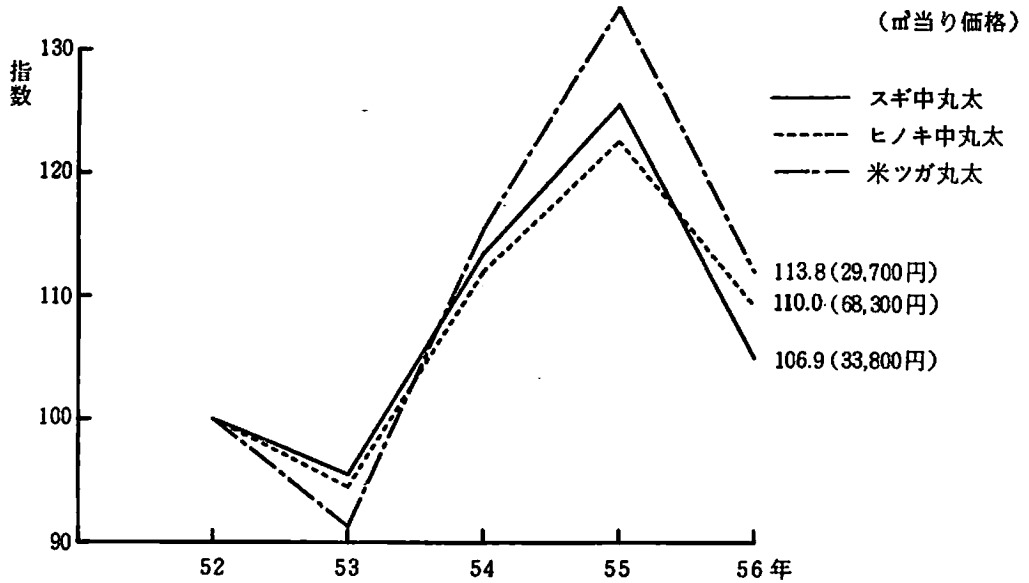


(注) 昭和56年2月 林野庁資料

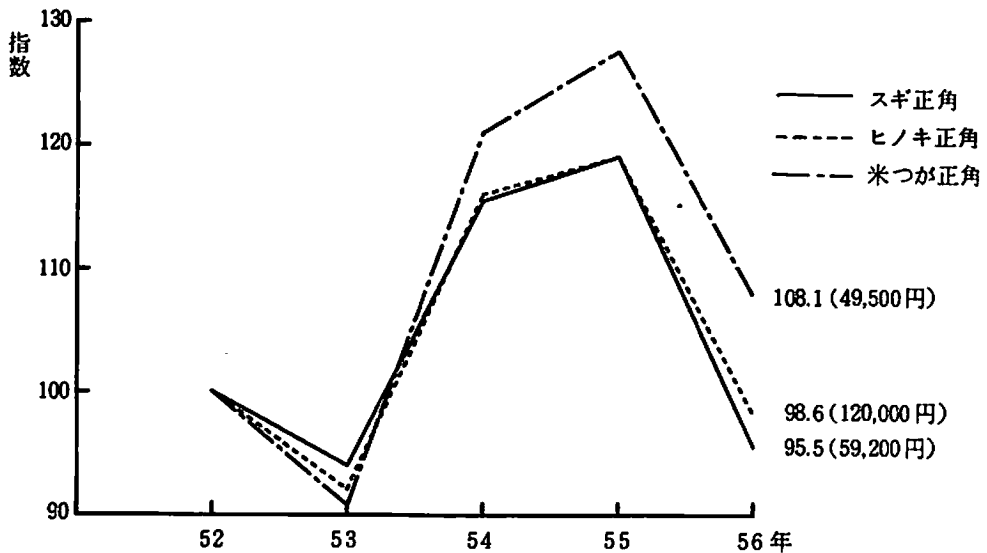
(3) 木材価格………上昇率の少ない製材用素材価格

最近5ヶ年間の国産材丸太価格の上昇率は低く、56年は、51年の106～113の伸びにとどまっている。

製材用素材価格 (52年=100)



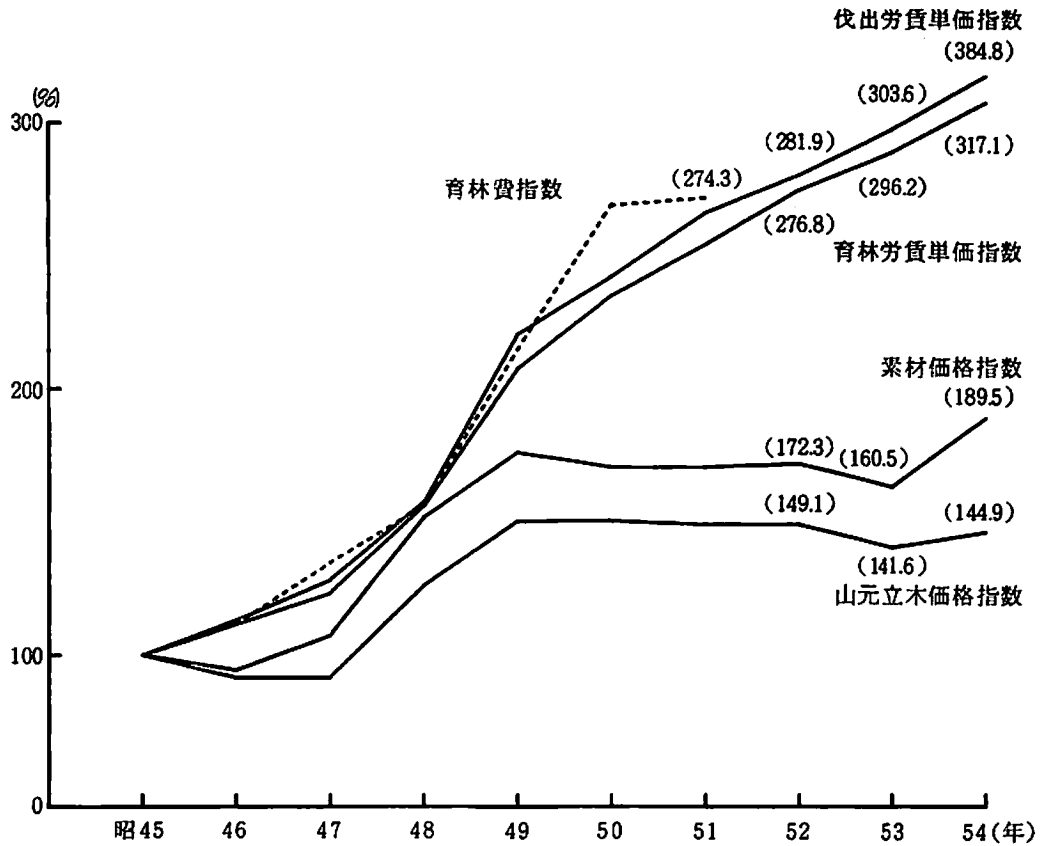
木材製品卸売価格 (52年=100)



(注) 昭和57年2月 林政課業務資料

8 林業経営……著しく低下した林業収益率

育林労務賃、伐出労務賃単価の上昇は45年の3.2倍で、素材価格・山元立木価格をはるかに上回っている。このため林業経営の収益率は著しく低下してきた。



(注) 昭和56年2月 林経協情報

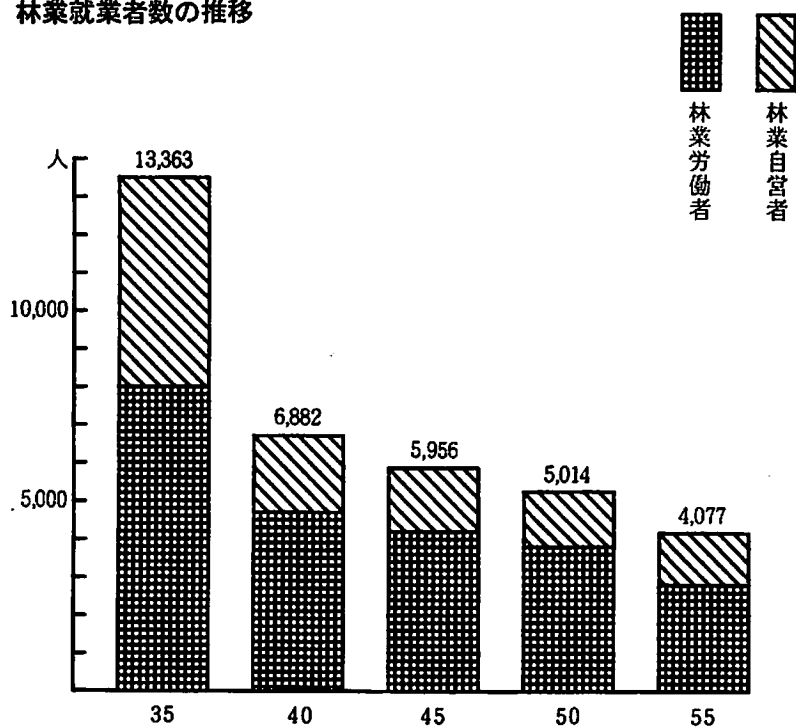
9 林業就業

(1) 林業就業者数……減少を続ける林業就業者

55年における林業就業者数は4,077人で、35年に比して69%の大幅な減少を示している。

また、林業自営者と林業労働者の比(55年)は、3:7となっている。

林業就業者数の推移

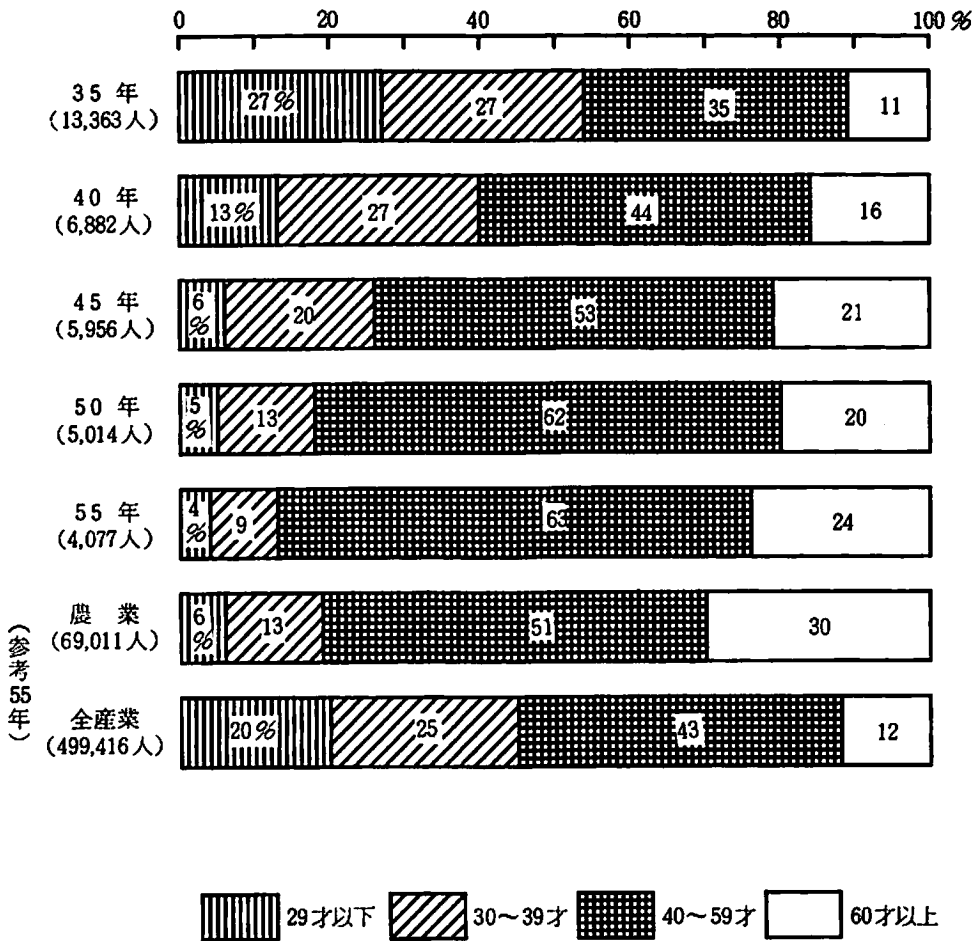


(注) 国勢調査による。

(2) 林業就業構造……高令化する林業就業者

35年には全体の半数以上を占めていた40才未満の林業就業者は、55年にはわずか13%に減少し、逆に40才以上が大半を占めるようになり、著しく高令化が進んでいる。また、30才未満は僅か4%にすぎず、後継者の確保が重要な課題となっている。

年令階層別林業就業者数



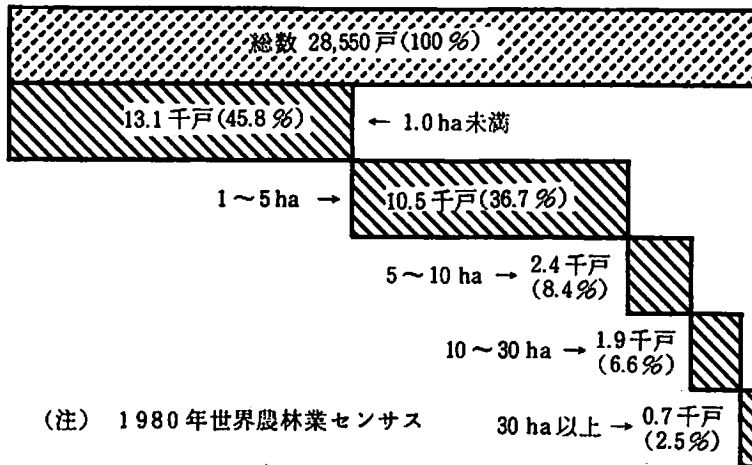
(注) 国勢調査による。

10 林 家……………大半を占める零細規模の林家

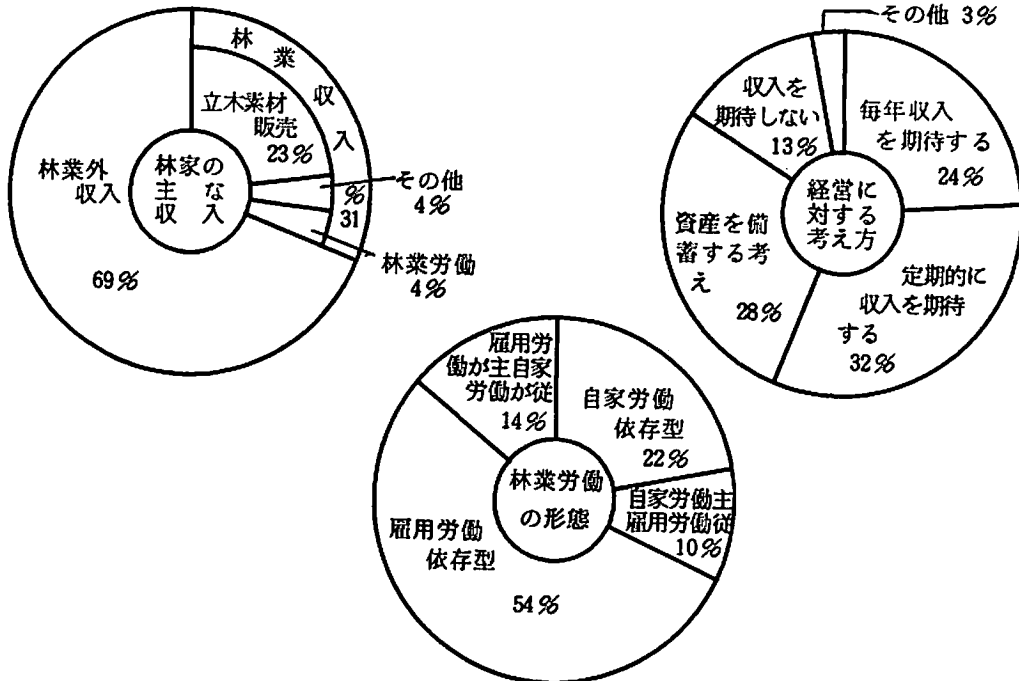
保有林 5 ha 以下の林家が全体の 83% を占め、零細な規模の林家が多い。

また、山林の保有目的は、規模が小さい林家ほど財産保持的な意識が強い。

保有山林規模林家数



林家の意識

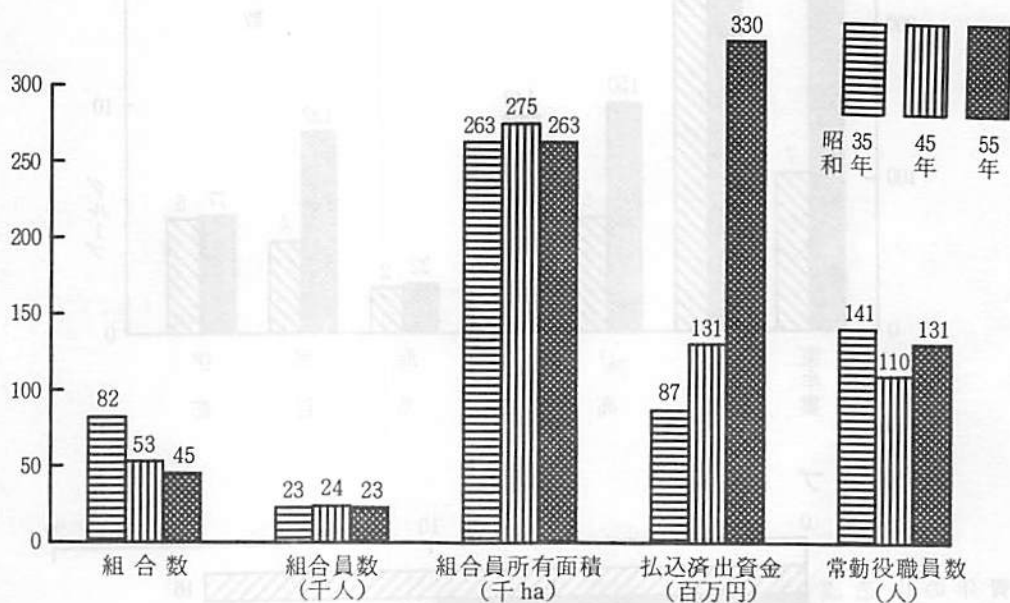


(注) 森林施業等意向調査 (和歌山県)

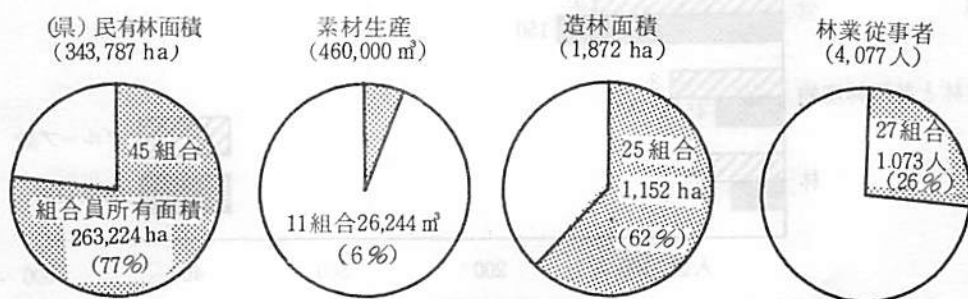
11 森林組合……望まれる森林組合の育成強化

森林組合数は45組合で、組員総数は22,656人（1組合平均503人）、出資金総額は330,053千円（同7,335千円）となっている。また、作業班の有する組合は27組合である。

森林組合組織状況の推移



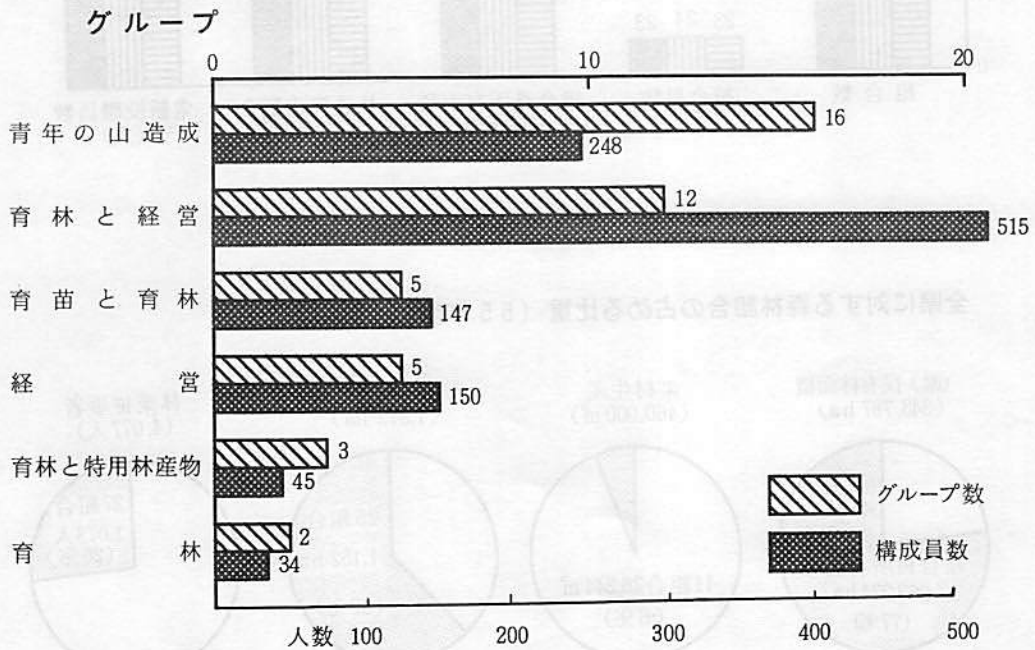
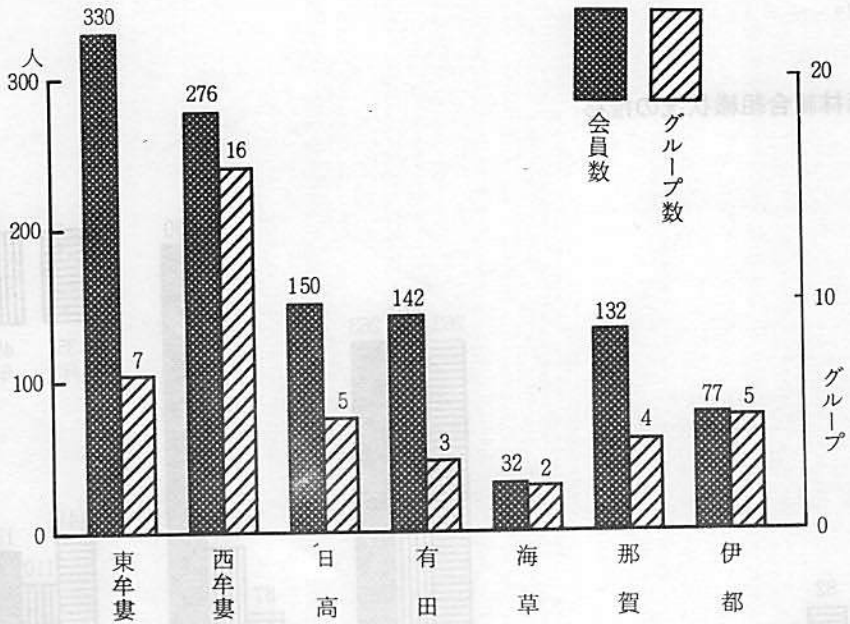
全県に対する森林組合の占める比重（55年度）



(注) 昭和55年度 林政課業務資料

12 林業研究グループ……活躍する林研グループ

地域林業の中核的担い手である林研グループは、現在43グループ(1,139人)で、各方面で活躍している。

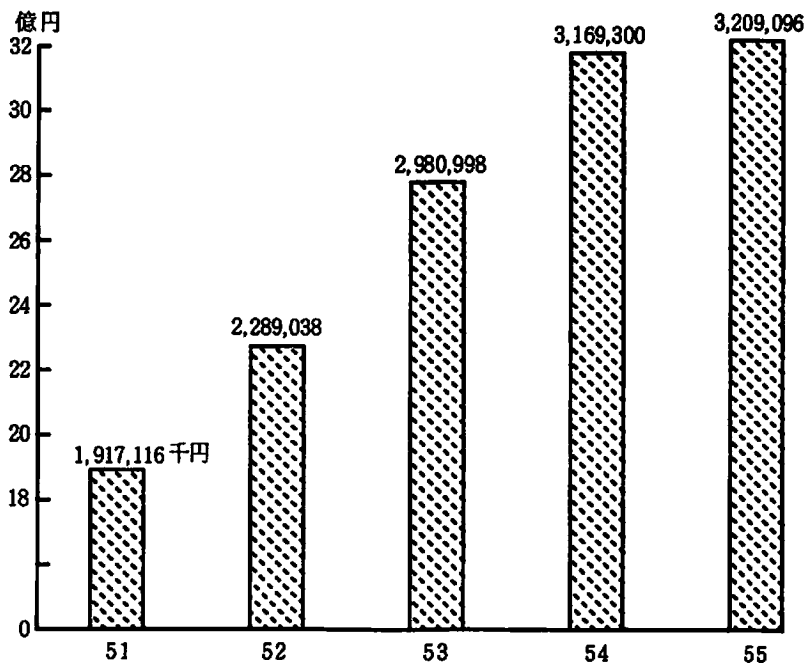


(注) 昭和55年度 林政課業務資料

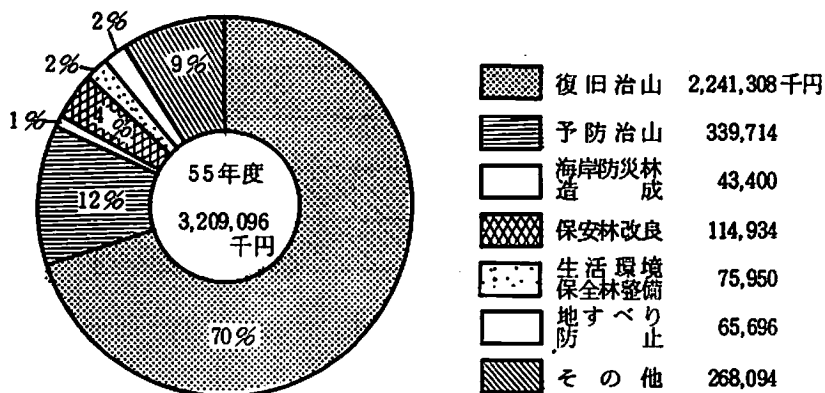
13 県土の保全……伸長著しい治山事業

林地の崩壊を復旧・防止する治山事業や、保安林改良、生活環境保全林の整備など治山関連事業費は、昭和55年度には51年度の1.7倍と大幅な増加を示している。

治山事業の推移（事業費）

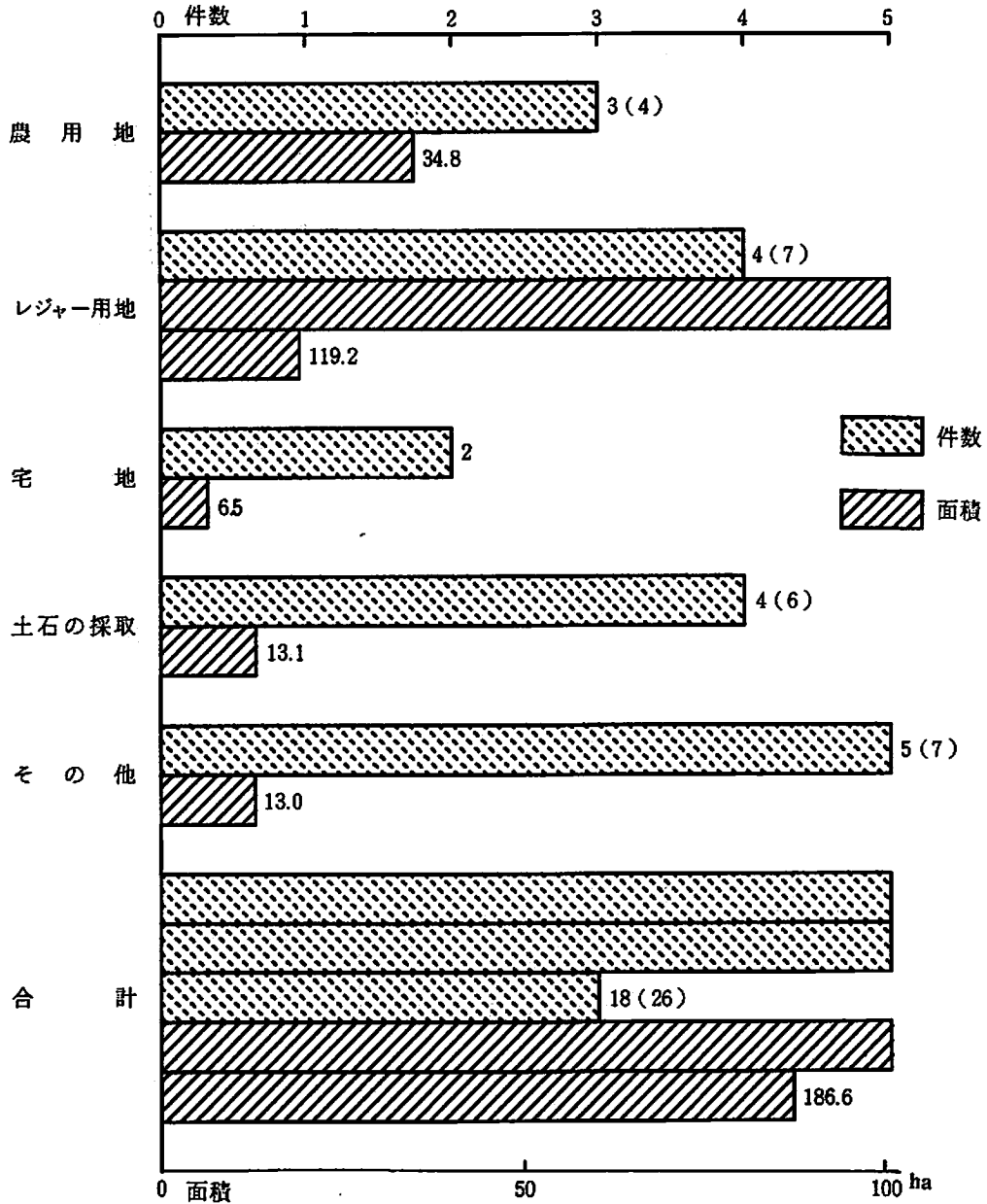


事業別内訳（55年度）



(注) 55年度 林業課業務資料

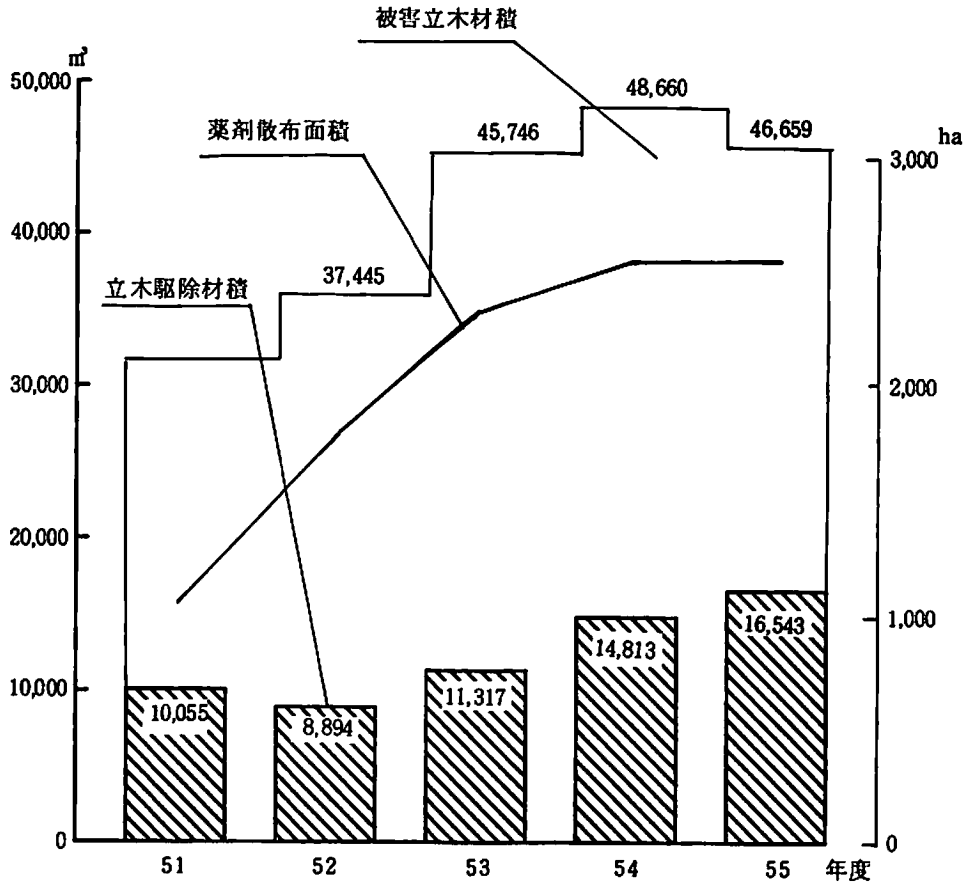
林地開発許可の実績（51～55年度5ケ年間）



(注) 昭和55年度 林業課業務資料
 件数の()内数値は変更許可件数を含む。

14 森林保護……減少した松くい虫の被害

松くい虫被害は全県下にまんえんし、その被害は年々増加していたが、被害立木駆除及び薬剤防除を大幅に拡充し防除の徹底を図った結果、55年度の被害は減少をみた。

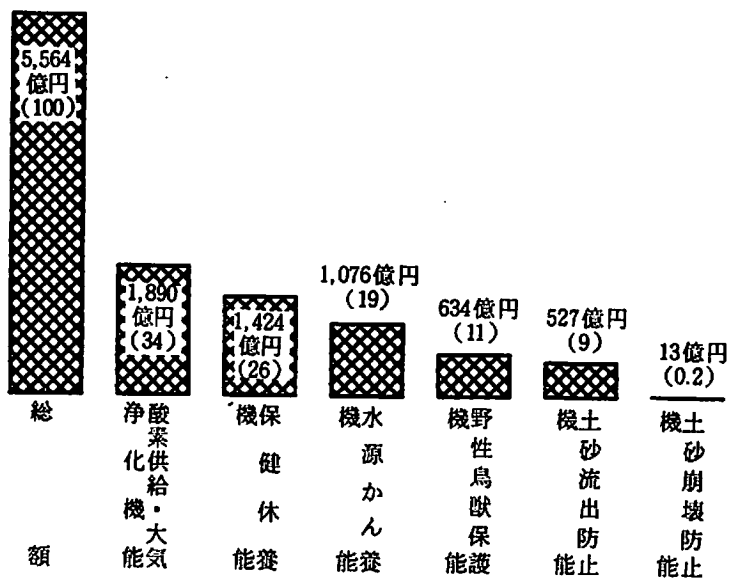


(注) 林業課業務資料

15 森林の機能……年額 5,564 億余円の公益的機能

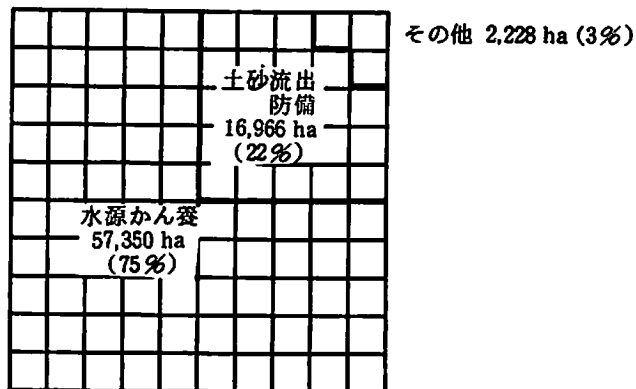
森林は、木材生産のほか、県土の保全、水資源のかん養及び生活環境の保全・形成等多面的機能を有し、県民生活に大きく貢献している。この森林のもつ公益的機能を計量化すると年額 5,564 億円の効用を県民にもたらしていると評価している。

森林の公益機能の評価



(注) 昭和 56 年 4 月 林政課業務資料

保安林の種類別面積 (民有林) 76,544 ha



(注) 昭和 56 年 3 月 林業課業務資料

16 和歌山県林業の諸指標

区 分	土地面積 (55.10.1)	森林面積 (1980センサス)	林 野 率 (1980センサス)	人工林率 (1980センサス)	人工林面積 (民有林) (1980センサス)
和 歌 山 県 ㊶	千ha 472	千ha 363	% 77	% 60	千ha 206
全 国 ㊷	37,753	25,197	67	40	7,265
対全国比 (㊶/㊷×100)	1.3	1.4	—	—	2.8
本 県 の 順 位	30	25	9	8	13

区 分	人工林蓄積 (民有林) (1980センサス)	人工林 ha当 蓄積(民有林) (1980センサス)	林道密度 (民有林) (55年度末)	造林面積 (民有林) (54年)	素材生産量 (55年)
和 歌 山 県 ㊶	千m ³ 26,800	m ³ 130	m/ha 2.88	ha 2,357	千m ³ 460
全 国 ㊷	780,600	107	3.40	117,752	34,051
対全国比 (㊶/㊷×100)	3.4	—	—	2.0	1.4
本 県 の 順 位	6	14	38	19	25

区 分	乾しいたけ 生産量 (55年)	白 炭 生産量 (55年)	くろちく 生産量 (55年)	谷わさび 生産量 (55年)	しゅろ皮 生産量 (55年)
和 歌 山 県 ㊶	t 137.6	t 2,403	千束 4.9	t 5.0	t 10.6
全 国 ㊷	13,579.4	7,178	42.8	2,429.5	10.7
対全国比 (㊶/㊷×100)	1.0	33.5	11.4	—	99.1
本 県 の 順 位	21	1	4	15	1

区 分	素材需要量 (55年)	外材輸入率 (55年)	林 家 数 (1980センサス)	林業専業 労働者数 (1980センサス)	林業生産 所 得 (55年)
和 歌 山 県 ①	千㎡ 1,797	% 76.9	戸 28,550	人 3,144	百万円 20,615
全 国 ②	76,471	57.2	2,531,300	110,259	853,903
対全国比 (①/②×100)	2.3	—	1.1	2.9	2.4
本 県 の 順 位	12	16	40	11	18

- (注) 1 1980年世界農林業センサス
2 国勢調査
3 昭和55年度林政課業務資料
4 昭和55年生産林業所得統計報告書

17 森林資源並びに林産物生産等の見通し

(1) 和歌山県

(ア) 森林整備の目標（民有林）

区 分		年 度	現 況（57年度）	目 標（70年度）
人 工 林	面 積（ha）		207,760	228,162
	材 積（千m ³ ）		28,785	42,603
天 然 林	面 積（ha）		131,396	104,596
	材 積（千m ³ ）		13,182	12,397
そ の 他	面 積（ha）		4,631	2,780
計	面 積（ha）		343,787	335,538
	材 積（千m ³ ）		41,967	55,000
人 工 林 率（％）			60	68

- (注) 1 現況は県業務資料による。
 2 昭和60年度までは国土利用計画和歌山県計画により、61～70年度までは林道開設に伴う森林面積の減少を見込んで算出したものである。
 3 数値は地域森林計画対象森林である。

(イ) 造林及び伐採の見通し

単位：ha、千m³

区 分	年 度	55～60	61～65	66～70	計
再 造 林		7,600	10,000	13,700	31,300
拡 大 造 林		8,400	7,900	6,900	23,200
天 然 更 新		9,900	9,000	10,600	29,500
計		25,900	26,900	31,200	84,000
主 伐		3,549	4,409	5,393	13,351
間 伐		707	826	753	2,286
計		4,256	5,235	6,146	15,637

(ウ) 林産物生産の見通し

区 分 \ 年 度	現況 (55年度)	65年度	70年度
柔 材 (千㎡)	460	626	788
生しいたけ (t)	729	547	635
乾しいたけ (t)	138	230	300
白 炭 (t)	2,403	2,300	2,300
さんしょ (t)	27.5	80	85
ひらたけ (t)	167	230	250

(注) 現況は県業務資料による。

(エ) 林道、治山整備の目標

区 分 \ 年 度	現況 (55年度)	65年度	70年度	
林道延長 (km)	1,512	2,441	3,321	
林道密度 (m/ha)	2.88	7.10	9.66	
作業道延長 (km)	152	215	250	
治山整備	(ha)	330	390	420
	(千円)	3,209,096	3,822,000	4,430,000
保安林整備 (ha)	76,544	80,420	80,990	

(注) 1 現況は県業務資料による。

2 治山事業は単年計画

(2) 全 国

(ア) 森林資源整備の目標

区 分		指向する 森林資源 の 状 態	現 状	目 標 と す る 森 林 資 源 の 状 態				
				61年度	71	81	91	101
面積 (万ha)	総 数	2,470	2,526	2,482	2,477	2,474	2,472	2,470
	人 工 林	(49) 1,239	(49) 944	(49) 1,114	(49) 1,219	(49) 1,235	(49) 1,237	(49) 1,239
	天 然 林	1,161	1,510	1,298	1,188	1,169	1,165	1,161
	除 地	70	72	70	70	70	70	70
蓄積 (百万㎡)	総 数	3,308	2,186	2,558	2,927	3,204	3,308	3,308
	人 工 林	(84) 1,943	(47) 798	(65) 1,238	(85) 1,659	(103) 1,914	(114) 1,984	(122) 1,962
	天 然 林	1,364	1,387	1,319	1,267	1,289	1,323	1,345
	除 地	1	1	1	1	1	1	1
人 工 林 率 (%)		52	38	46	51	51	51	52
ha当たり蓄積 (㎡)		138	89	106	122	133	138	138
年間伐採量 (百万㎡)		113	45	58	71	89	103	110

(注) (1) 現状は、昭和51年4月1日現在の状態を示す(年間伐採量は51年度)。

(2) 目標とする森林資源の状態は、各年度の4月1日の状態を示す。

(3) 目標とする森林資源の状態の面積は、国土利用計画(全国計画)における昭和60年の森林の目標面積を基準とし、61年度以降について林道開設計画による森林面積の減少を見込んで算定したものである。

(4) 人工林欄の()は内数で、現状は人工林であるが、自然的条件、社会的要請等により特殊な施業を行うことにより針広混交林等一定の林型に誘導すべき森林である。

(5) 「森林資源に関する基本計画」並びに「重要な林産物の需要及び供給に関する長期の見通し」(昭和55年5月)

(イ) 林産物需給の見通し

(単位：百万㎡)

区 分		昭和51年 実 績	61年	71年	101年
需 要	製 材 用 材	57.4	62.6	65.4	
	パ ル プ 用 材	(5.4) 29.6	(7.0) 36.1	(7.5) 44.9	
	合板・繊維板・削片板用材	(2.2) 12.8	(3.0) 14.9	(3.3) 17.6	
	しいたけ原木・薪炭用材	2.9	3.6	4.1	
	そ の 他 用 材	1.7	1.2	1.2	
	計	(7.6) 104.4	(10.0) 118.4	(10.8) 133.2	
供 給	国 内 供 給 量	(7.6) 38.2	(10.0) 46.2	(10.8) 57.7	87.9
	輸 入 量	66.2	72.2	75.5	
	計	(7.6) 104.4	(10.0) 118.4	(10.8) 133.2	
輸 入 量 の 比 率 (%)		63.4	61.0	56.7	

(注) (1) () は工場残材で外数である。

(2) 「森林資源に関する基本計画」並びに「重要な林産物の需要及び供給に関する長期の見通し」(昭和55年5月)

1 山村・過疎地域

(1) 山村・過疎地域………県土の65%を占める山村・過疎地域

山村地域及び過疎地域の県内にしめる地位

種 別		全 県 (A)	山村地域 (B)	(B)/(A) %	過疎地域 (C)	(C)/(A) %
人 口 (人)		1,087,012	83,229	7.7	74,240	6.8
面 積 (ha)	総 土 地 面 積	472,318	296,578	62.7	249,002	52.7
	林 野 面 積	362,968	272,693	75.1	230,349	63.5
	耕 地 面 積	36,867	5,701	15.5	3,468	9.4
産 業 (就 業 人 口) (人)	総 就 業 人 口	498,769	40,669	8.2	34,418	6.9
	第 1 次 産 業 就 業 人 口	80,323	14,940	18.6	10,507	13.1
	うち林業就業人口	4,077	3,251	79.7	2,830	69.4
	第 2 次 産 業 就 業 人 口	148,264	9,289	6.3	8,791	5.9
	第 3 次 産 業 就 業 人 口	270,182	16,440	6.1	15,120	5.6

(注) 1 55年国調、1980年農林業センサス
2 就業人口は職種不明分を含まず。

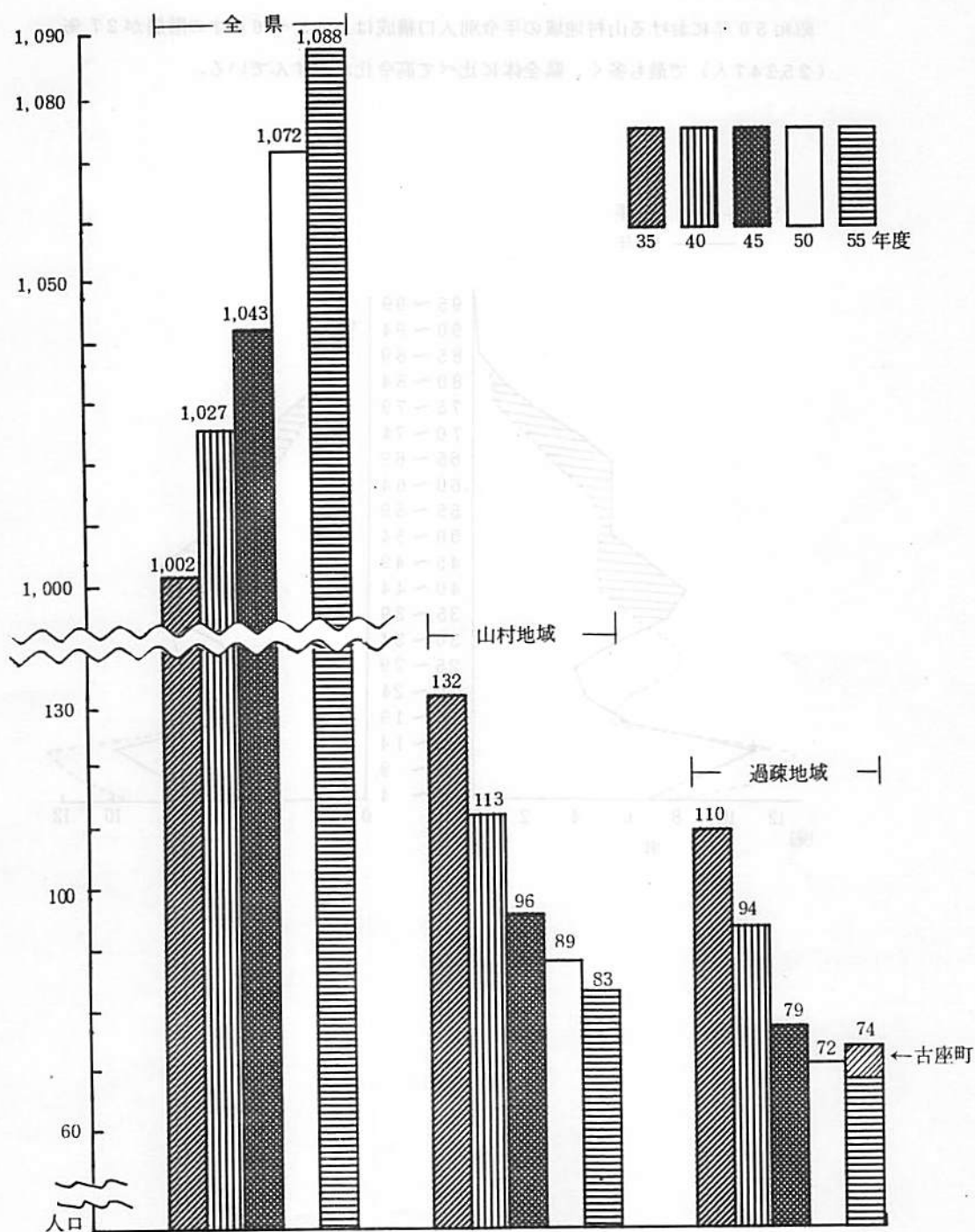
(2) 人口動態………人口減少が著しい山村及び過疎地域

山村地域及び過疎地域と全県の人口

地 域 別	実 数 (人)					増 減 率 (%)				
	昭和35年	40	45	50	55	35~40	40~45	45~50	50~55	35~55
全 県	1,002,191	1,026,975	1,042,736	1,072,118	1,087,012	2.5	1.5	2.8	1.4	8.5
山村地域	132,401	113,136	97,019	89,068	83,229	△ 14.6	△ 14.2	△ 8.2	△ 6.6	△ 37.1
過疎地域	110,411	94,211	78,545	72,300	74,240	△ 14.7	△ 16.6	△ 8.0	2.7	△ 32.8

(注) 1 国勢調査による。△は減少を示す。
2 55年度過疎地域人口には新過疎町の古座町を含む。

昭和35年～55年人口動態

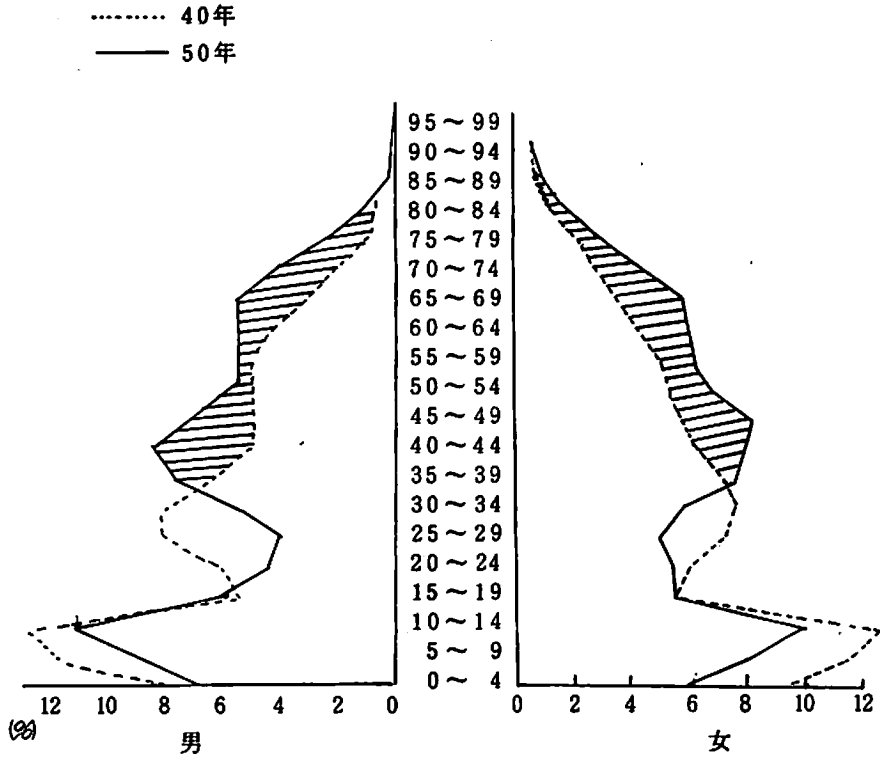


(注) 1 国勢調査による。

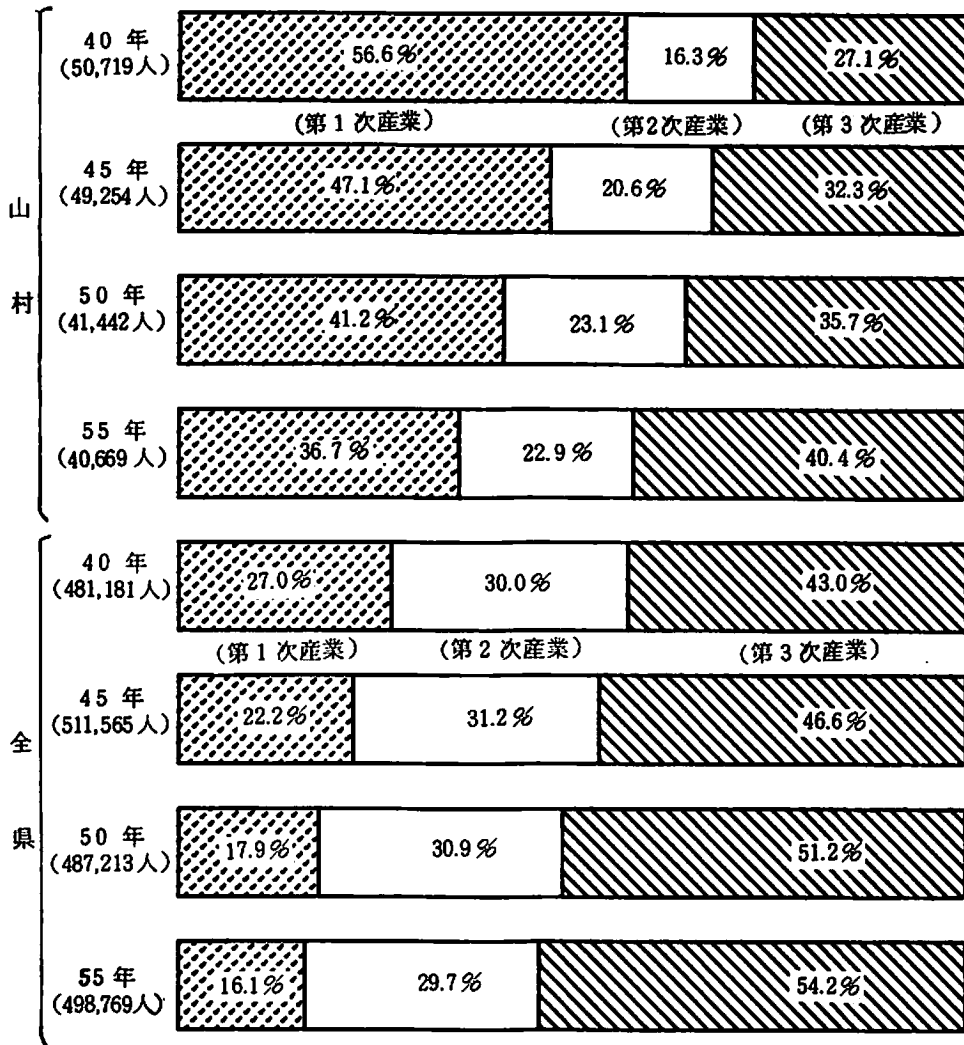
2 55年度過疎地域人口に新過疎町の古座町を含む。

(3) 年齢別人口構成……高令化している山村地域

昭和50年における山村地域の年齢別人口構成は、45～64才の階層が27% (25,247人) で最も多く、県全体に比べて高令化がすすんでいる。



(4) 産業別就業人口……第1次産業が最も多い山村の就業構造



(注) 55年全県の就業人口は職種不明分を含まず。

2 山村地域の産業……林業依存度の高い山村

(1) 山村林業の地位

種別 \ 地域別	山村地域 A	全 県 B	A / B %
林 野 面 積 (ha)	272,693	362,968	75.1
森 林 蓄 積 (千㎡)	24,548	31,129	78.9
林業就業人口 (人)	3,251	4,077	79.7
林 家 戸 数 (戸)	10,604	31,394	33.8

(注) 林業就業人口は55年国勢調査による。その他1970年農林業センサスによる。

(面積は1980年農林業センサス)

(2) 保有山林規模別林家数

地域別 保有規模	林 家 数						山村地域
	山村地域	構成比	その他の地域	構成比	全 県	構成比	全県
0.1 ~ 1ha	戸 3,620	% 34.3	戸 11,600	% 55.7	戸 15,220	% 48.5	% 23.8
1 ~ 5未	4,340	4.1	6,856	3.2	11,196	3.5	3.8
5 ~ 10未	1,190	1.3	1,244	6.0	2,434	7.7	4.8
10 ~ 20未	810	7.6	652	3.1	1,462	4.7	5.5
20 ~ 30未	269	2.5	183	0.9	452	1.4	5.9
30 ~ 50未	190	1.8	124	0.6	314	1.0	6.0
50 ~ 100未	97	0.9	81	0.4	178	0.6	5.4
100以上	51	0.5	87	0.4	138	0.4	3.7
計	10,567	100	20,827	100	31,394	100	

(注) 1970年農林業センサスによる。

(3) 人工林面積の推移

(上段：40年、下段：55年)

区 分		森 林 面 積	人 工 林 面 積	人 工 林 率
山 村 地 域	全 部 山 村 の 町 村	154,717	86,645	56
		154,626	104,620	68
	一 部 山 村 を 含 む 市 町 村	161,926	77,358	48
		159,885	94,948	59
	小 計	316,643	164,003	52
		314,511	199,568	63
そ の 他 の 地 域		50,554	19,913	39
		48,480	19,021	39
県 計		367,197	183,916	50
		362,991	218,589	60

(注) 1980年農林業センサスによる。

3 生活環境……遅れている生活環境整備

(1) 国道・県道・市町村道の整備状況（53年3月現在）

(単位：m)

		実延長 (A)	全県に対する 山村の比率	舗装延長		
				実数(C)	C/A(%)	
山 村	全 部 山 村	国 道 (知事管理分)	165,999	67.2	130,207	78.4
		主要地方道	294,396	36.4	222,968	75.7
		一般県道	206,953	15.2	154,130	74.5
		市町村道	1,778,147	16.2	234,916	13.2
		計	2,445,495	18.3	742,221	30.4
地 域	一 部 山 村	国 道	54,315	22.2	54,315	100
		主要地方道	328,383	40.6	303,810	92.3
		一般県道	656,802	48.3	574,033	87.4
		市町村道	4,367,015	39.9	1,444,557	33.1
		計	5,407,015	40.4	2,377,215	44.0
そ の 他 の 地 域	国 道	26,176	10.6	26,176	100	
	主要地方道	186,276	23.0	177,903	95.5	
	一般県道	496,900	36.5	459,550	92.5	
	市町村道	4,807,185	43.9	2,402,852	50.0	
	計	5,516,537	41.3	3,066,781	55.6	
県 計	国 道	246,990	100	211,198	85.5	
	主要地方道	809,055	100	704,631	87.1	
	一般県道	1,360,655	100	1,188,013	87.3	
	市町村道	10,952,347	100	4,082,325	37.3	
	計	13,369,047	100	6,186,217	46.3	

(注) 県道路課および山村対策課資料による。

農 道

		実延長 (A)	全県に対する 山村の比率%	舗装延長	
				実数(C)	C/A(%)
山村地域	全部山村	338,160m	11.1	49,504m	14.6
	一部山村	1,656,211	54.3	537,867	32.5
その他の地域		1,053,884	34.6	369,287	35.0
県計		3,048,255	100	956,658	31.4

(注) 県耕地課資料による。

林 道

		実延長 (A)	全県に対する 山村の比率%	舗装延長	
				実数(C)	C/A(%)
山村地域	全部山村	496,114m	33.8	42,554m	8.6
	一部山村	748,786	51.0	57,418	7.7
その他の地域		222,740	15.2	26,674	12.0
県計		1,467,640	100	126,646	8.6

(注) 県林政課資料による。

国 道 (国管理分)

		実延長 (A)	全県に対する 山村の比率%	舗装延長	
				実数(C)	C/A(%)
山村地域	全部山村	- ^m	-	- ^m	-
	一部山村	136,443	49.9	136,443	100
その他の地域		136,905	50.1	136,905	100
県計		273,348	100	273,348	100

(注) 建設省 和歌山工事事務所資料による。

(2) 小・中学校児童生徒数

単位：生徒数人・率%

区分	年度	昭和35	40	45	50	54	40/35	45/40	50/45	54/50	54/35
		山村地域	小学校	19,885	13,185	10,549	7,440	6,629	66.3	80.0	70.5
	中学校	7,992	8,139	6,178	5,142	3,600	101.8	75.9	83.2	70.0	45.0
全 県	小学校	126,341	97,625	94,569	97,511	105,709	77.3	96.9	103.1	108.4	83.7
	中学校	60,284	58,918	46,139	46,745	76,402	97.7	78.3	101.3	163.4	126.7

(注) 学校基本調査資料による。

山村の小・中学校における学級編成

学校別	年度	昭和35年			昭和50年			昭和54年		
		単式	複式	計	単式	複式	計	単式	複式	計
小学校	実数 (学級数)	578	224	802	344	190	534	370	151	521
	構成比 (%)	72.1	27.9	100	64.4	35.6	100	71.0	29.0	100
中学校	実数 (学級数)	266	13	279	207	2	209	181	3	184
	構成比 (%)	95.3	4.7	100	99.0	1.0	100	98.4	1.6	100

(注) 学校基本調査資料による。

(3) 医 療

無医地区の動向

		無 医 地 区 数			無 医 地 区 人 口			無 医 地 区 人 口 総 人 口 率	
		山村地域	その他の地域	計	山村地域	その他の地域	計	山村地域	その他の地域
昭 41	A 地区	12	13	25	7,614	8,970	16,584	6.7	1.0
	B 地区	98	38	136	13,983	5,946	19,929	12.3	0.7
	計	110	51	161	21,597	14,916	36,513	19.1	1.6
昭 46	A 地区	12	11	23	6,573	5,139	11,712	6.8	0.5
	B 地区	42	6	48	5,849	1,264	7,113	6.0	0.1
	計	54	17	71	12,422	6,403	18,825	12.8	0.7
昭 53	A 地区	7	3	10	4,342	2,384	6,726	4.9	0.2
	B 地区	33	10	43	4,211	1,895	6,106	4.7	0.2
	計	40	13	53	8,553	4,279	12,832	9.6	0.4

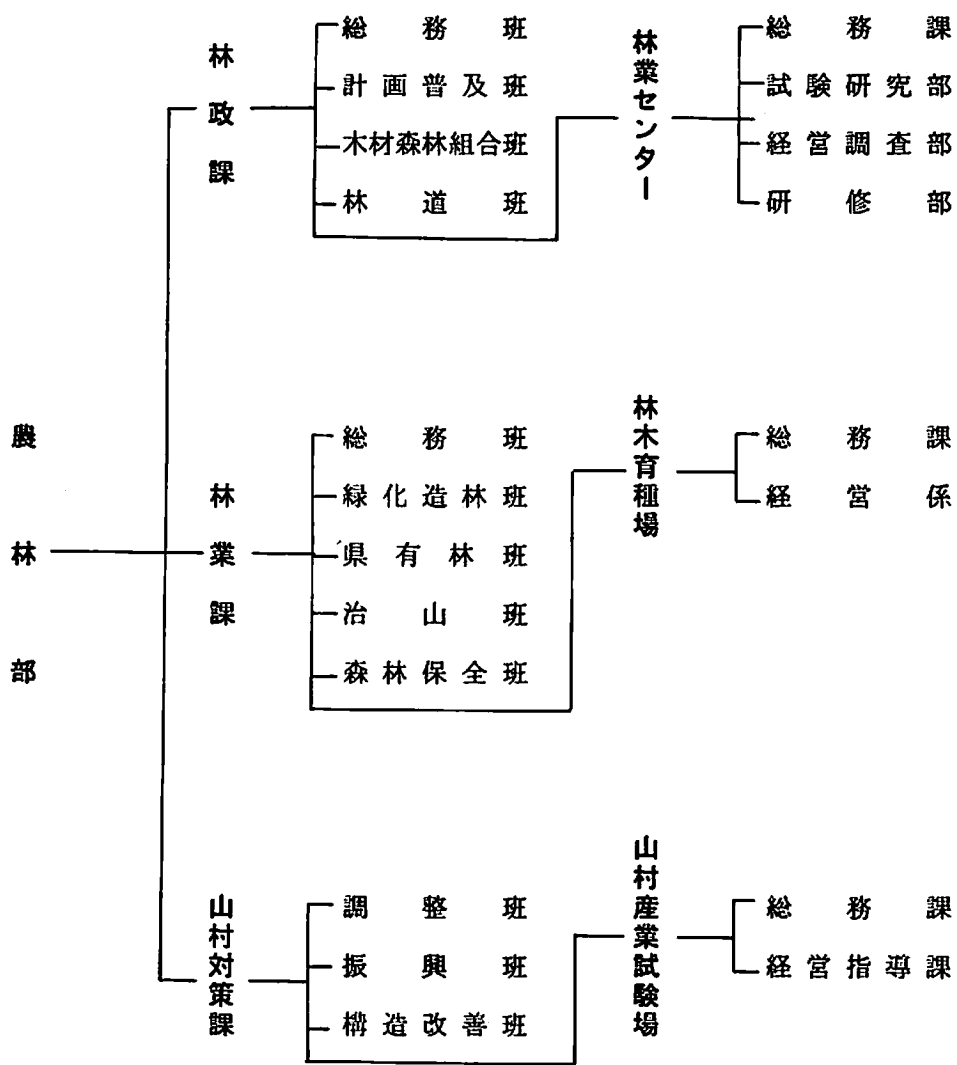
- (注) (1) A地区は交通事情等立地条件が極めて悪く人口300人以上の地区
 (2) B地区は人口50～300未満のAに準ずる地区
 (3) 県医務課資料による。

(4) 農業集落における生活環境の状況

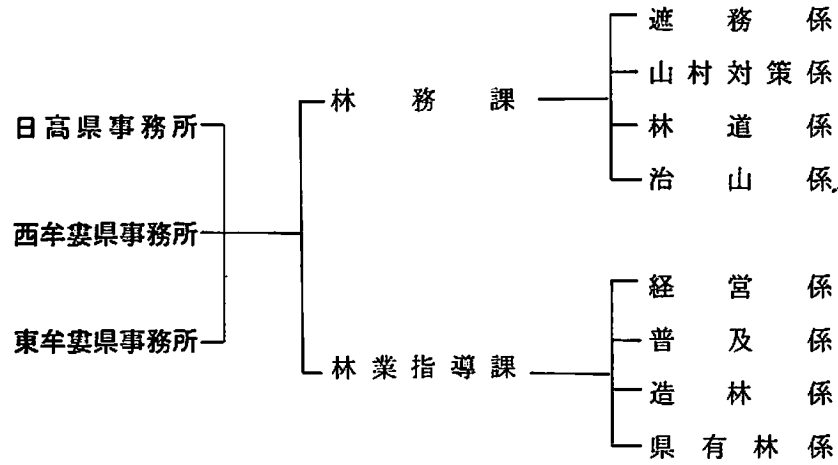
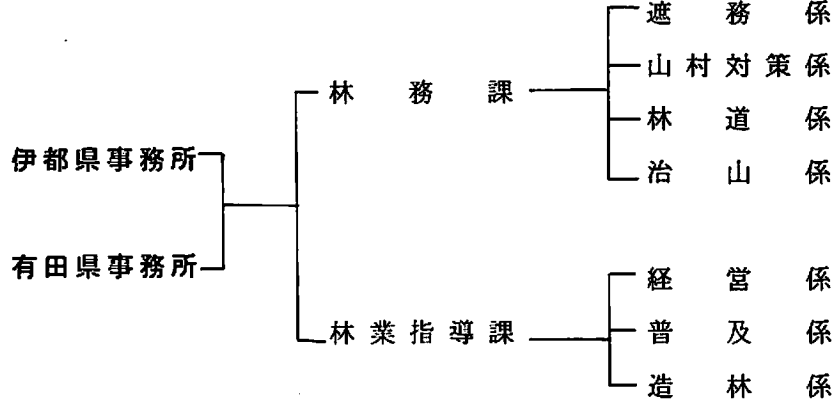
区分 地域	農業 集 落 数	農 家 戸 数	市 町 村 道			一 般 生 活 道			医療施設まで10km以上の集落数	水 道		し尿を自家処理している集落数	ごみ(可燃物)を集落処理数	家庭雑排水を河川・農業用排水路に処理している集落数	集落・市町村管理の集落の数の
			通 っ て い な い 集 落 数	幅員3.5m以上の道路	延長割合5割以下集落数	舗装率5割以下集落数	通 っ て い な い 集 落 数	幅員2.0m以上の道路		延長割合5割以下集落数	舗装率5割以下集落数				
実 全 県	(1,600) 1,534	57,769	50	1,158	267	130	1,166	721	207	490	598	467	353	1,064	1,215
数 山村地域	492	11,982	42	390	171	47	427	361	136	310	340	331	236	324	381
比 全 県	-	-	3.3	75.5	17.4	8.5	76.0	47.0	13.5	31.9	39.0	30.4	23.0	69.4	79.2
率 山村地域	-	-	8.5	79.3	34.8	9.6	86.8	73.4	27.6	63.0	69.1	67.3	48.0	65.9	77.4

- (注) (1) 1980年農林業センサスによる。
 (2) 農業集落数は、和歌山市、海南市の市街化区域内集落を除く数字で、以下の数字もそれに対応する数字である。
 () 農業集落数は、全集落数字。

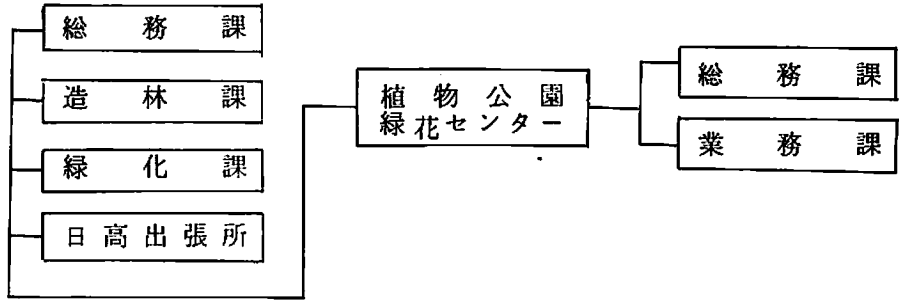
第3 林務関係・行政組織図



県事務所



林業公社

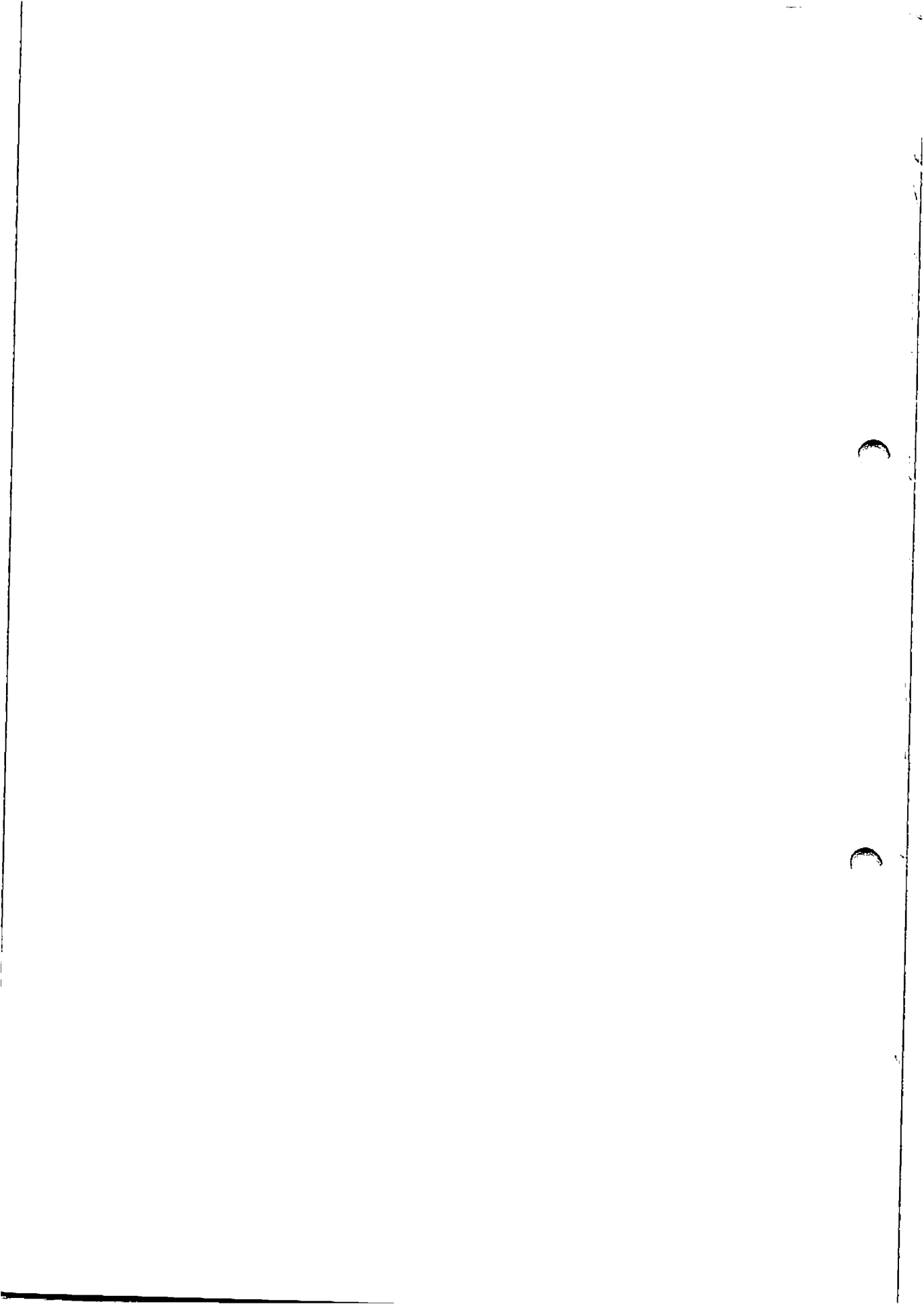


1. 10/1/2000
 2. 10/1/2000
 3. 10/1/2000
 4. 10/1/2000

5. 10/1/2000
 6. 10/1/2000
 7. 10/1/2000
 8. 10/1/2000
 9. 10/1/2000
 10. 10/1/2000

11. 10/1/2000
 12. 10/1/2000
 13. 10/1/2000
 14. 10/1/2000
 15. 10/1/2000

16. 10/1/2000
 17. 10/1/2000
 18. 10/1/2000
 19. 10/1/2000
 20. 10/1/2000



C

C